WinBook **Bird/X**

ユーザーズガイド



SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Microsoft・MS-DOSは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下MS-DOSと省略します。
Microsoft・Windows®98は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下Windows®98と省略します。
Internet Explorerは米国マイクロソフト社の登録商標です。
PS/2は米国IBM社の登録商標です。

WinBook Bird/X
ユーザーズガイド

WinBook

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Bird/Xをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ソーテックWinBook Bird/Xは、高精細の1024×768ドットワイド画面に加え、ベースステーションと接続することでCD-ROMドライブやステレオスピーカなどのマルチメディア機能が追加され、Windows®を活用するための数多くの機能をコンパクトなA4ファイルサイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を7つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Bird/Xを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

Windows®の起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読みください」は、必ずお読みください。
この中には、WinBook Bird/Xを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windows®を再インストールする場合は「始めにお読みください」に書かれているとおりにドライバなどのインストールを行わないとWinBook Bird/Xの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

本製品を正しくお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜け」という意味です。

⚠ 警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。

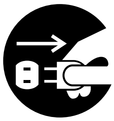
●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償補修の対象外となります。修理は販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

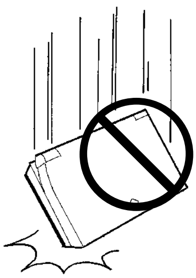
●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。

⚠ 注意



電源プラグを抜く

● ＡＣアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。



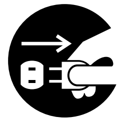
● 落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。



●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

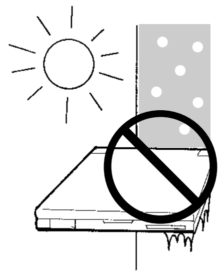


●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。



電源プラグを抜く

● 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。



●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～30℃)/使用周囲湿度(２０～８０%)を超える範囲では使用・保存しないでください。



●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。（発熱することは異常ではありません。）



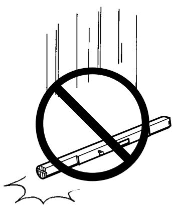
●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。



●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

⚠ 警告

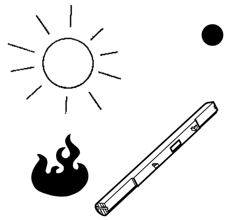
●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。



●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれているので、分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

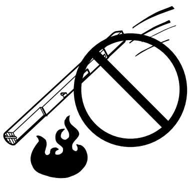


●バッテリは火気の近くや直射日光の当たる場所で使用、放置、充電しないでください。危険防止の保護回路が壊れ、発熱・発火の恐れがあります。

●バッテリから液が漏れて、液が眼に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。

⚠ 注意



●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(+と−の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリを水や、海水につけたり、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないで、弊社テクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているか確認してください。

●バッテリは乳幼児の手の届かぬ所へ保管し、使用するときも、乳幼児が機器からバッテリを取り出さぬよう注意してください。

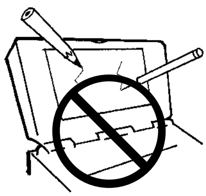
●使用済のバッテリは、端子にテープなどを貼り、絶縁して廃棄してください。

保証について

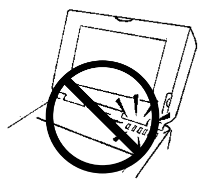
保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証期間後の修理については、お買い求めいただいた販売店までご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有償で修理いたします。
保証書は、お買いあげいただいた販売店で、所定事項を記入のうえお受け取りになり、大切に保管してください。

⚠**注意** **本製品を、分解、改造された場合、保証期間であっても無償保修の対象にはなりません。また、修理対応もできません。**

お願い



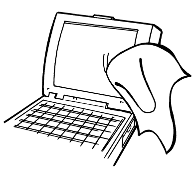
●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり､引っかいたりしないでください。



●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは､移動させないでください。

●本製品にインストールされているWindows®、および各種ユーティリティソフトが収録されているフロッピーディスクおよびCDは、大切に保存してください。
●ハードディスクに保存したデータなどは､定期的にバックアップをお取りください。

お手入れについて



●液晶ディスプレイの汚れは､清潔でやわらかい乾いた布を使い､から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは､乾式のクリーニングディスクを使って､定期的にクリーニングしてください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～30℃)の環境に放置した後、お使いください。

Contents

第1章 スタートアップガイド

第2章　キーボード操作になれよう

第3章 マルチメディアを楽しもう

第4章 システムを拡張する

第5章 システムの設定を変える(BIOS)

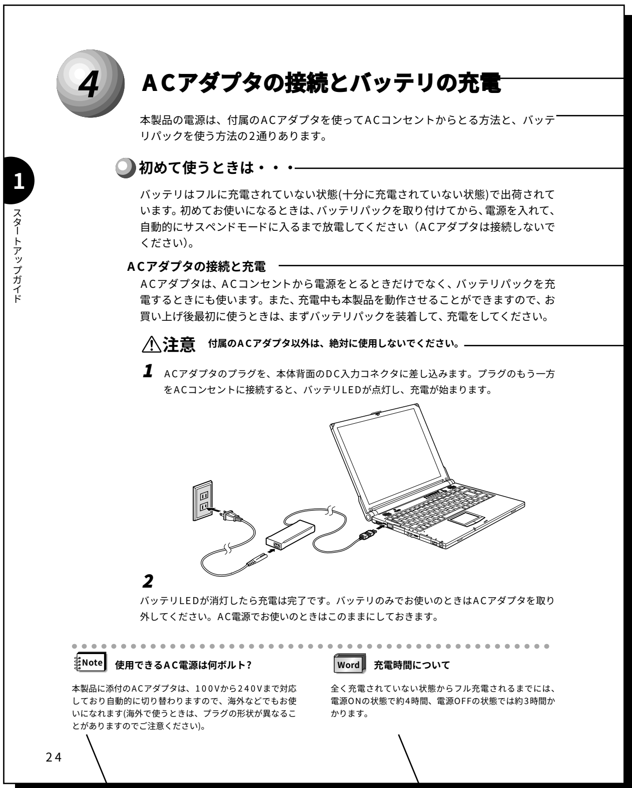
第6章ベースステーションと接続する

第7章　トラブルが起きたら・・・

Appendix

ユーザーズガイドの読みかた

各ページの構成は、次のようになっています。



4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは・・・

バッテリはフルに充電されていない状態(十分に充電されていない状態)で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、電源を入れて、自動的にサスペンドモードに入るまで放電してください（ACアダプタは接続しないでください)。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

⚠注意　付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。

1 ACアダプタのプラグを、本体背面のDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、バッテリLEDが点灯し、充電が始まります。

2 バッテリLEDが消灯したら充電は完了です。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。

Note　使用できるAC電源は何ボルト?

本製品に添付のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください)。

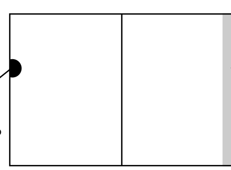
Word　充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、電源ONの状態で約4時間、電源OFFの状態では約3時間かかります。

1 スタートアップガイド

24

インデックスについて



チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく8つのセクションに分けられています。

説明	章	
付属品の確認から、実際に電源を入れてWindows®を使うまでの手順を説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。	**スタートアップガイド**	**1**
キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードになれていない方は必ずお読みください。	**キーボード操作になれよう**	**2**
Windows®のマルチメディア機能、および本製品のサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたについて説明しています。	**マルチメディアを楽しもう**	**3**
PCカードの使いかた、メモリを増設する方法、および外部周辺機器の接続方法などについて説明しています。	**システムを拡張する**	**4**
システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法などについて説明しています。	**システムの設定を変える(BIOS)**	**5**
CD-ROMドライブなどの拡張機器や、LAN(10Base-T/100Base−TX)などの各種コネクタを装備したベースステーションとの接続について説明しています。	**ベースステーションと接続する**	**6**
トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。	**トラブルが起きたら･･･**	**7**
本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。	**Appendix**	

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作になれよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
マルチメディア機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 マルチメディアを楽しもう」、「第4章 システムを拡張する」、「第6章ベースステーションと接続する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える(BIOS)」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第7章 トラブルが起きたら…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、101ページの「第7章 トラブルが起きたら…」のページや、プレインストールされている『はじめにお読みください』をお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。

・お客様のお名前、連絡先
・本製品を購入された販売店、代理店の名称
・本製品のシリアル番号または製造番号（本製品底面のラベルに印刷してあります）
・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テックサポートFAXシートを使うときは・・・

本ユーザーズガイド巻末に付属している「テックサポートFAXシート」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号　0120-22-5474
FAX番号　045-224-1126
E-mail　support @ sotec.co.jp
受付時間：　月～金曜日　9：00～18：00
土・日曜日　9：00～17：00
(但し、弊社指定休業日を除く)

⚠注意　**ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理、または交換となります。記憶されているアプリケーション、データなどの保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。**
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

第1章

スタートアップガイド

各部の名前の確認と､実際に電源を入れてWindows®を立ち上げるまでを、順を追って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使うときには必ずお読みください。

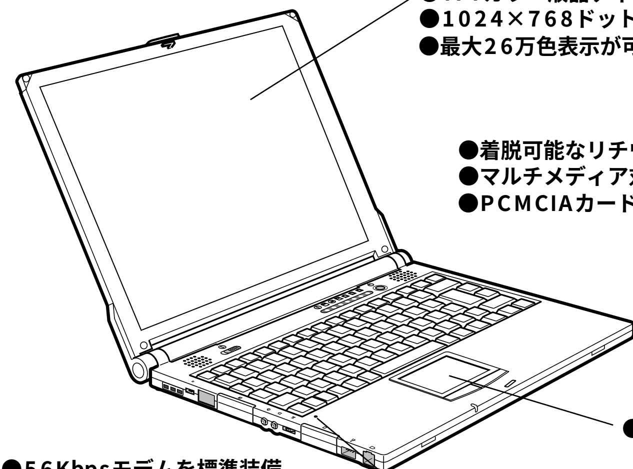
1 WinBook Bird/Xの機能を知る

WinBook Bird/Xの主な機能や特長を紹介します。

●A4ファイルサイズ

●TFTカラー液晶ディスプレイ
●1024×768ドットのXGA対応
●最大26万色表示が可能

●着脱可能なリチウムイオンバッテリパックを標準装備
●マルチメディア対応サウンド機能搭載
●PCMCIAカードスロットTYPE II ×2スロットを標準装備



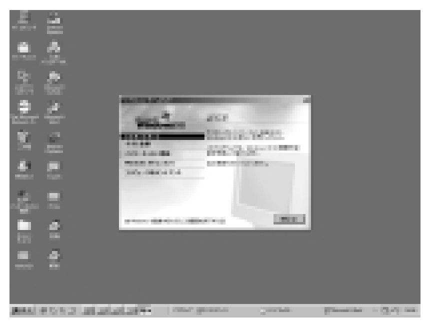
●タッチパッドを標準装備

●56Kbpsモデムを標準装備
●USBポートを標準装備
●モノラルスピーカを標準装備

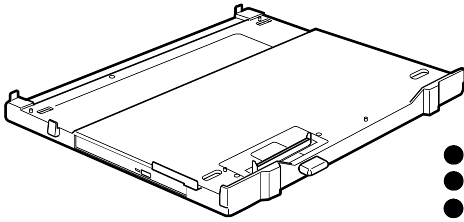
●内蔵マイクを標準装備

●3モード3.5インチFDDを標準装備

●Windows®98をプレインストール



●ベースステーション(別売)

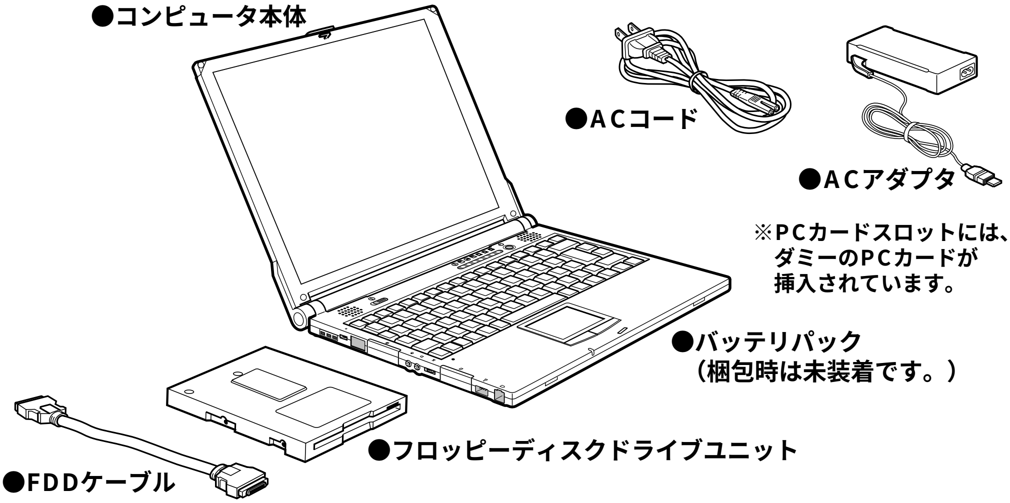


●ステレオスピーカを標準装備
●最大24倍速CD-ROMドライブユニットを標準装備
●3モード3.5インチFDDを装着可能

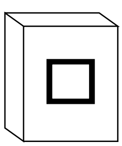
2 梱包の内容を確認する

本製品には次のような付属品とソフトウェアが含まれています。パッケージを開けたら、付属品が全てそろっているか確認してください。

ハードウェアと付属品

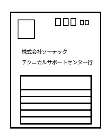


●Windows®98パッケージ



・Windows98マニュアル
・Registration Card
・CD-ROM

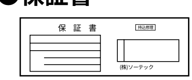
●ユーザー登録カード



●WinBook Bird/X
ユーザーズガイド(本書)



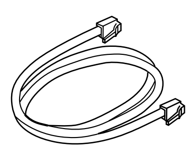
●保証書



●各種ドライバソフト



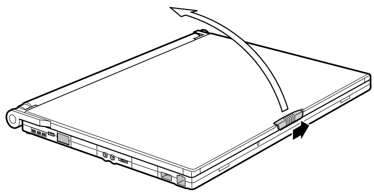
●モジュラーケーブル



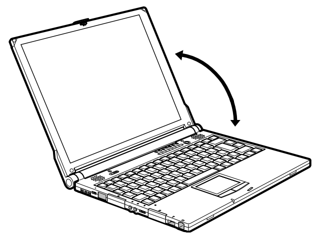
3 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め

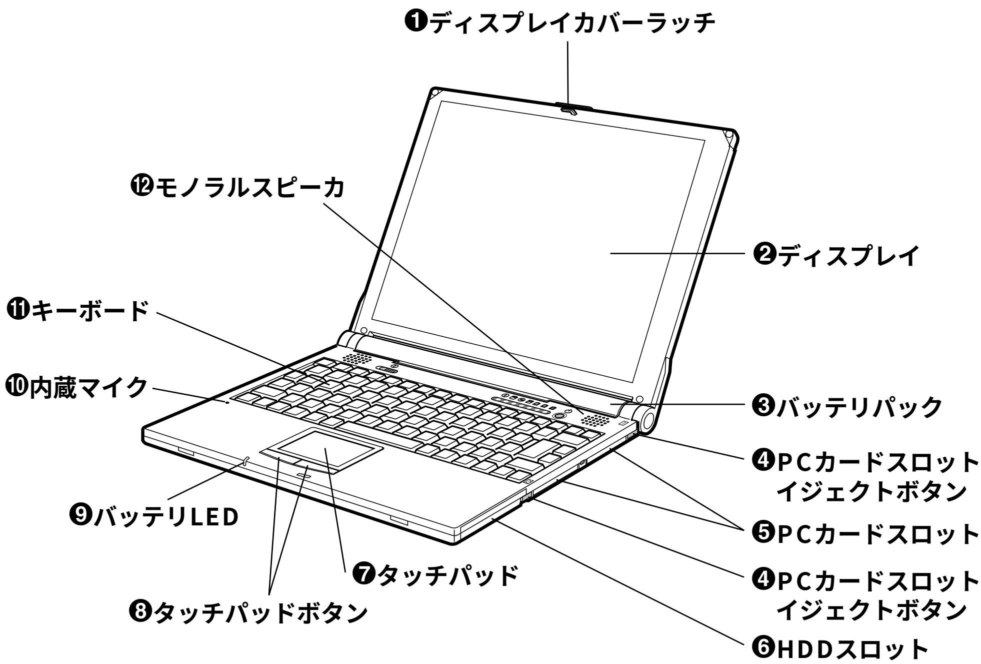


カバーを開けるときは、手前のラッチを右へスライドして、見やすい角度まで開きます。



カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。

前面/右側面



❶ディスプレイカバーラッチ

ラッチを右へスライドして、見やすい角度までディスプレイを開けます。

❷ディスプレイ

文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(➔ 85ページ)

❸バッテリパック

AC電源が無いような場所でコンピュータを動作させるためのバッテリです。出荷時にはバッテリは取り付けられていません。(➔ 24ページ)

❹PCカードスロットイジェクトボタン

PCカードスロットに差し込んだPCカードを取り出すボタンです。(➔ 66ページ)

❺PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(➔ 64ページ)

❻HDDスロット

HDDカートリッジを収納します。(➔ 70ページ)

⚠ **注意**　**コンピュータが動作中のときは、HDDカートリッジを取り出さないでください。**

❼タッチパッド

指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(➔ 30ページ)

❽タッチパッドボタン

それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(➔ 30ページ)

❾バッテリLED

バッテリの状態を表示します。(➔ 25ページ)

❿内蔵マイク

音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 58ページ)

⓫キーボード

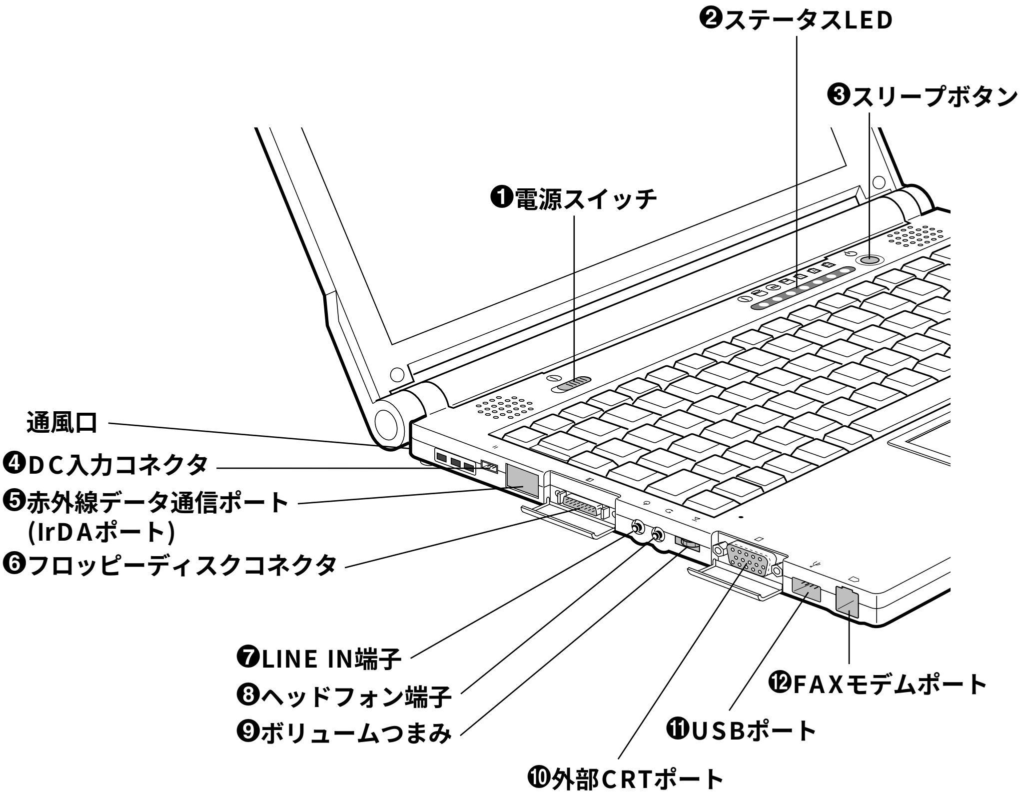
キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。(➔ 48ページ)

⓬モノラルスピーカ

モノラルスピーカです。(➔ 43ページ)

前面/左側面

ディスプレイカバーラッチを右へスライドしながら、ディスプレイを開けてください。



⚠注意 **通風口をふさがないでください。**
本体内部の温度が上がり、故障や誤動作の原因となります。

❶電源スイッチ

電源をON/OFFすることができます。(➔ 28ページ)

⚠注意　**HDD LEDやFDD LEDが点灯しているときには、電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。データを壊すおそれがあります。また、電源をOFFした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。**

❷ステータスLED

本機の動作状態を表示します。(➔ 23ページ)

❸スリープボタン

コンピュータをサスペンド状態にすることができます。(➔ 42ページ)

❹DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(➔ 24ページ)

❺赤外線データ通信ポート(IrDAポート)

他のノートパソコンやプリンタなどに大量のデータを高速に伝送するためのポートです。(➔ 74ページ)

❻フロッピーディスクコネクタ

フロッピーディスクドライブユニットを接続することができます。(➔ 44ページ)

❼LINE IN端子

CD プレーヤなど、外部オーディオ機器を接続します。(➔ 59ページ)

❽ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続します。音声はステレオで出力されます。(➔ 59ページ)

❾ボリュームつまみ

内蔵モノラルスピーカの音量や、FAXモデムの音量などを調整します。(➔ 43ページ)

❿外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(➔ 72ページ)

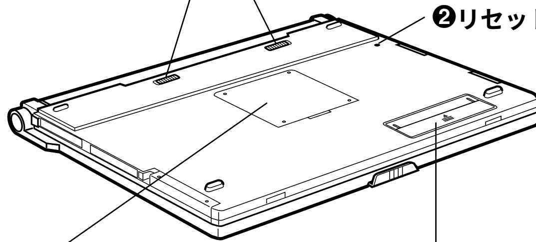
⓫USBポート

USB規格準拠の周辺機器を接続します。(➔ 75ページ)

⓬FAXモデムポート

56Kbps通信が可能なV.90およびK56flex規格に対応した内蔵モデムです。(➔ 75ページ)

底　面



❶バッテリ固定用フック

バッテリパックを取り外すときに、このフックをスライドさせます。(➔ 26ページ)

❷リセットボタン

コンピュータを再起動させます。(➔ 29ページ)

⚠注意　**HDD LEDやFDD LEDが点灯しているときには、電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。データを壊すおそれがあります。また、電源をOFFした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。**

❸メモリスロットカバー

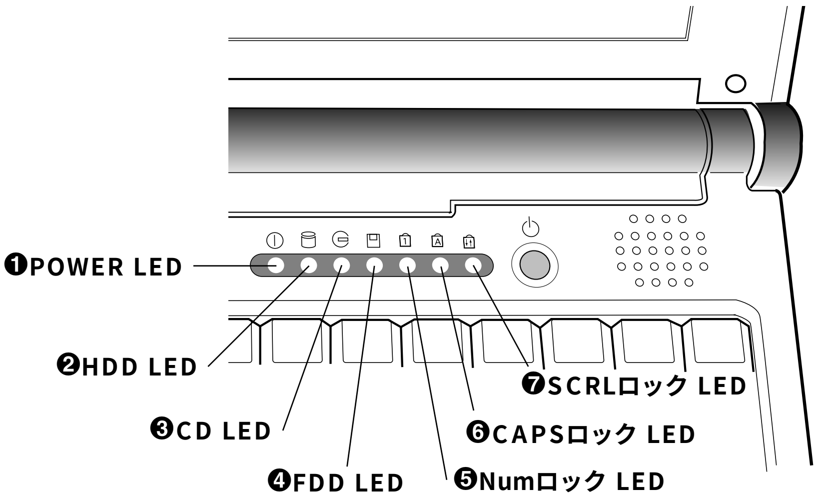
メモリを増設するときに、このカバーを外します。(➔ 70ページ)

❹ベースステーション用コネクタ

ベースステーションと接続するときに使用します。(➔ 94ページ)

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表します。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



❶POWER LED	パソコンの電源状態を表示します。(➔ 25ページ)
❷HDD LED	ハードディスクドライブのアクセス中に点灯します。
❸CD LED	CD-ROMドライブへのアクセス中に点灯します。
❹FDD LED	フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
❺Numロック LED	NumLock キーがロック状態のときに点灯します。この状態でニューメリックキー(テンキー)が使えます。
❻CAPSロック LED	Caps Lock キーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
❼SCRLロック LED	ScrLock キーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

⚠注意 **HDD LED、CD LEDおよびFDD LEDが点灯しているときには、電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。**

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

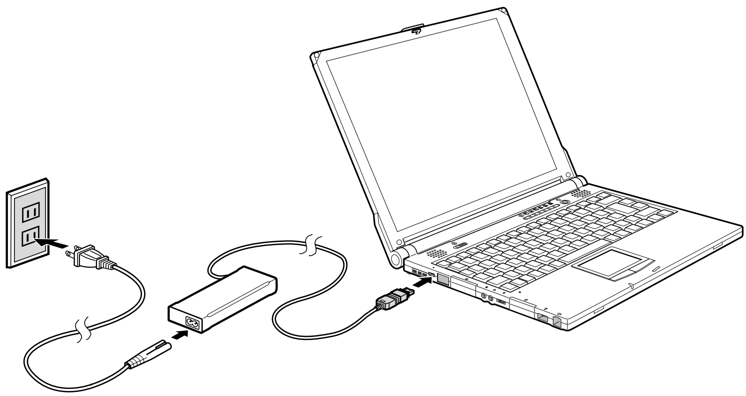
本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

注意 **付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。**

1 ACアダプタのプラグを、本体側面のDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、バッテリLEDが点滅し、充電が始まります。



2 バッテリLEDが点滅から点灯にかわれば、充電は完了です。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。

Note **使用できるAC電源は何ボルト?**

本製品に添付のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください)。

Note **充電時間について**

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、電源ONの状態で約6時間、電源OFFの状態では約3時間かかります。

POWER LEDの意味

緑色の点灯	電源がONの状態です。（バッテリ駆動時）
だいだい色の点灯	電源がONの状態です。（ACアダプタ駆動時）
消灯	電源がOFFの状態です。

バッテリ LEDの意味

AC入力があるとき

緑色の点滅	バッテリを充電中です。
緑色の点灯	バッテリの充電が完了です。（満充電）

バッテリ駆動中（電源ON時）

緑色の点灯	バッテリ残量が51%以上です。
黄色の点灯	バッテリ残量が26%～50%です。
だいだい色の点灯	バッテリ残量が11%～25%です。
だいだい色の点滅	バッテリ残量が10%以下です。

バッテリ残量が少なくなったときは・・・

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順序で警告を発します。

バッテリ残量が少ない ▶ バッテリ LEDが黄色に点灯します。

バッテリ残量がかなり少ない ▶ バッテリ LEDがだいだい色に点灯→点滅→強制的にサスペンド状態に入ります。(➔ 42ページ)

警告が発せられたら・・・

●ACアダプタを接続して充電する

●電源をOFFにした後、充電済みのバッテリパックと交換する

⚠注意

- **バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず26ページの説明にしたがって交換してください。**
- **バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。**
  バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。ビープ音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。
- **ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こすおそれがあります。**

Note **バッテリを節約するには・・・**

- 輝度を小さくする。
- パワーマネージメント機能を活かす。
- サスペンド機能を有効にする。
- なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

バッテリパックの交換

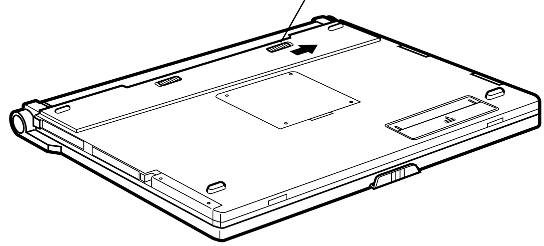
⚠注意 **付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります。**

2〜5ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源がOFFのとき、またはサスペンドのときしかできません。交換の前には、POWER LEDが消灯していることを確かめてください。

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

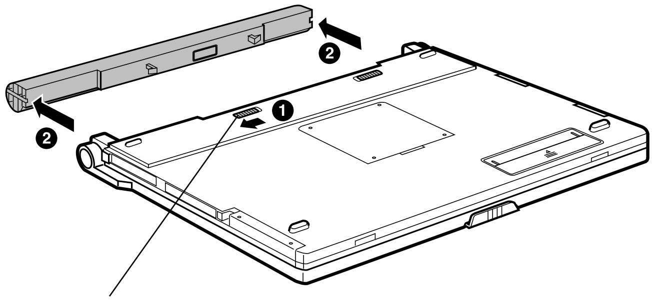
2 右のバッテリ固定用フックをUNLOCK側にスライドさせます。
フックはUNLOCK側で固定されます。



Word **サスペンド**

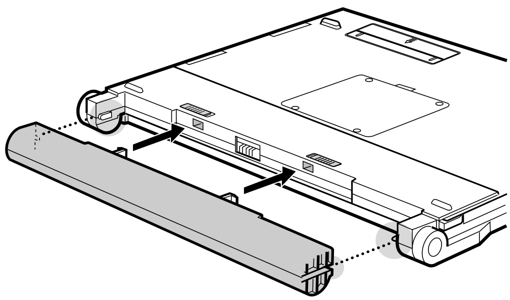
サスペンド機能とは、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリまたはHDDに保存し、再び電源をONすると、OFFにする直前と同じ状態で動作する機能です。ただし、本製品ではHDDに保存する方式を採用しています。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、サスペンド状態であっても、少量の電力が消費されていますので、長時間サスペンド状態にするときは、バッテリを取り外してください。この機能の設定方法は、「スタンバイ機能とサスペンド機能を設定する」をご覧ください。(➔41ページ)

3 左のバッテリ固定用フックをUNLOCK側にスライドさせたまま、バッテリパックを取り外します。

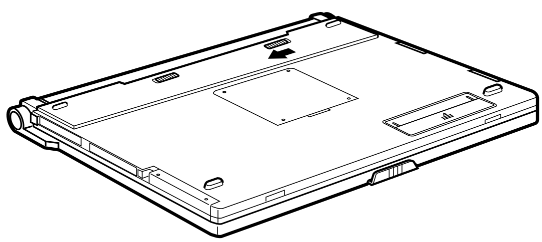


バッテリ固定用フック(左)

4 交換用のバッテリパックを、両側の溝に合わせて差し込みます。



5 右のバッテリ固定用フックをLOCK側にスライドさせます。
バッテリパックが確実に装着されているかを確認してください。

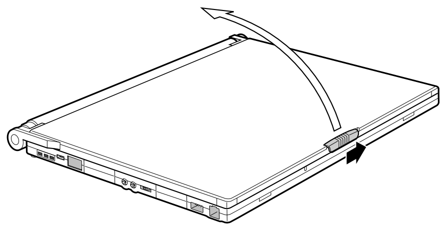


5 電源のON/OFFとリセット

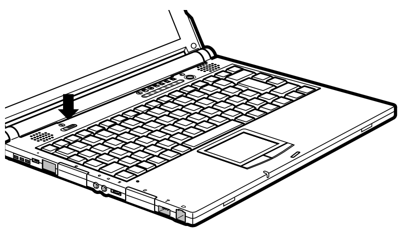
電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、または、バッテリが装着されているかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。サスペンドさせる場合は、システムコンフィグレーションメニューで設定を変更してください。

電源のON/OFF

1 本体の前面にあるディスプレイカバーラッチを右へスライドしさせて、ディスプレイカバーを開きます。



2 電源スイッチを左へスライドさせます。
電源を強制的にOFFするときは、電源スイッチを左へ4秒間以上スライドさせます。
通常は、Windowsの[スタート]メニューから終了してください。(➔ 33ページ)



お買い上げ後初めて電源をONにしたときは、Windowsセットアッププログラムが起動します。タッチパッドの使いかた(➔30ページ)を覚えてから、セットアップを実行してください。

⚠注意 **HDDおよびFDD LEDが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊されるおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。**

Note　POWER LEDの意味

緑色の点灯　：電源がONの状態です。
（バッテリ駆動時）
だいだい色の点灯：電源がONの状態です。
（ACアダプタ駆動時）
消灯　：電源がOFFの状態です。

コンピュータをリセットする

新しいドライバを組み込んだり、周辺機器を追加したときなどは、それらを認識させるためにコンピュータを再起動させる必要があります。
通常、Windows®の場合は、ドライバを組み込むときや周辺機器を追加してハードウェアウィザードを実行するときなどに再起動を促すメッセージが表示され、[OK]または[はい]をクリックすることで再起動させることができます。
また、[スタート]メニューからWindows®を終了させるときに［再起動する］を選択して、再起動させることもできます。
再起動させるには、このような方法以外にも、ソフトウェアリセットとハードウェアリセットの2通りの方法があり、それぞれの状況に応じてどちらかを実行します。

⚠注意 **むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させないとデータが消失することがあります。**

ソフトウェアリセット

新しいドライバを組み込んだり、MS-DOSモードでの使用時にAUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSを書き換えるなど、おもにソフトウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行ってリセットさせます。

[Ctrl]と[Alt]と[Del]キーを同時に押す

ハードウェアリセット

ソフトウェアリセットでもリセットできないときは、本体底面の穴から先端の細いピンなどで、リセットボタンを押してリセットにします。(➔ 22ページ)

⚠注意
- **リセットすると、保存されていないすべてのデータは消えてしまいます。**
- **サスペンドの実行中にハードウェアリセットを行うと、保存されていないデータは消えてしまいます。**
- **ベースステーション装着時は、ハードウェアリセットはできません。**

6 タッチパッドの使いかた

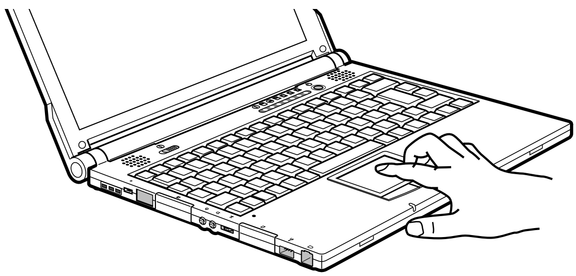
本製品には、マウスと同じ役割を果たす「タッチパッド」と左右2つの「タッチパッドボタン」が装備されています。Windows®では、これらを使ってマウスポインタ（マウスカーソル）を動かしたりクリックすることができます。

⚠注意

- **タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。**
- **2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂やよごれによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、十分に汚れを取りのぞいてからご使用ください。**
- **ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。**

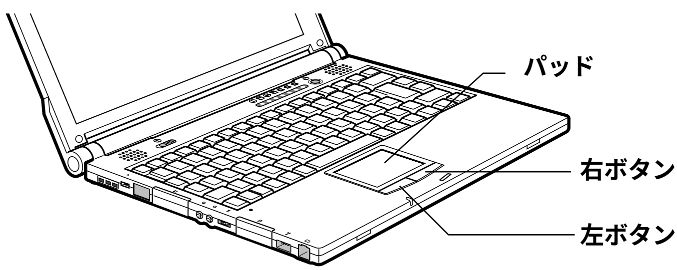
画面のポインタを動かすには・・・

タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。



クリック、ダブルクリック、ドラッグするには・・・

クリックとは、ボタンを1回押すことです。パッド上を1回たたくことでもクリックできます。ダブルクリックとは、ボタンを2回押すことです。パッド上を2回たたくことでもダブルクリックできます。
ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを1回押しながら（またはパッドを1回たたき）、指をパッドから離さず動かしていきます。



7 Windows®98をセットアップしてみましょう

お買い上げ後初めて電源をONにしたときには、まだ、Windows®98が使える状態にはなっていません。電源をONにし、しばらくすると「Windows98セットアップウィザード」の画面が表示されます。次の手順でセットアップを行ってください。

⚠注意 **セットアップが完了するまでは、本機の電源をOFFにしないでください。**

1 電源をONにして、しばらくすると、「ようこそ」の画面が表示されます。



ここでは、Windows98のセットアップを進める上で必要となる日本語入力の練習が行えます。練習を進める方は、キーボードの［ctrl］キーを押しながら［半角／全角］キーを1度押して、日本語入力ができる状態にします。
日本語入力の練習を進める方は、次にキーボードの［M］キーを押し、表示される内容に従って読み進めてください。
日本語の練習が必要でない場合は、「ようこそ」の画面でキーボードの［ESC］キーを押します。

2 次に「Windows98へようこそ」の画面が表示されます。



「名前」および名前の「よみがな」を入力して、キーボードの［Enter］キーを押します。

3 次に「マウスチュートリアル」の画面が表示されます。
ここでは、Windows98を使用する上で必ず必要なマウスの使いかたを練習します。表示されるメッセージに従って操作してください。
マウスの練習が必要でない場合は、キーボードの［ESC］キーを押します。

4 次に「モデムを使って接続する」の画面が表示されます。
ここでは、インターネットを利用される方のために、お使いの電話回線と本機モデムの接続条件を設定する画面です。
使用する国として「日本」、市外局番、外線番号の有無、お使いの電話回線がプッシュホンかどうかを選択していきます。
あとは表示されるメッセージに従って操作してください。
接続条件を設定されない方は、「モデムを使って接続する」の画面で、「スキップ」ボタンをクリックします。

5 次に「Windowsユーザー使用許諾契約」の画面が表示されます。
内容をよく読み「同意する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

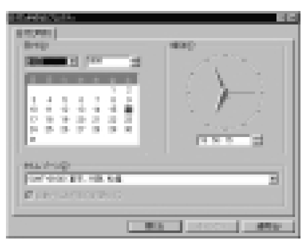
6 次に「Windowsプロダクトキー」の画面が表示されます。



Windows98のマニュアルの表紙に記載されている番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

7 次に「セットアップの完了」の画面が表示されます。［完了］をクリックします。

8 「日付と時刻のプロパティ」の画面が表示されます。



内容を確認し、［閉じる］をクリックします。

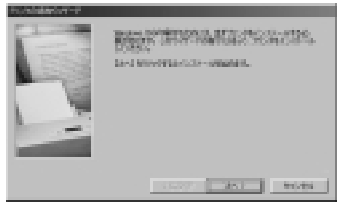
⚠**注意** **カレンダと時計が間違っていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違って記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。**

1 スタートアップガイド

9 [プリンタ ウィザード]画面が表示されます。

・本製品に接続できるプリンタをお持ちの場合は、[次へ>]をクリックし、ウィザードの指示にしたがってプリンタをインストールしてください。

・プリンタが無い場合は、[キャンセル]をクリックします。



10 ［Windows98へようこそ］の画面が表示されます。
Windows98の機能や使いかたを知ることができます。この画面を閉じるときは[×](閉じる)をクリックします。

11 ディスクトップ画面上にある［お使いになる前に実行してください］アイコンをダブルクリックします。

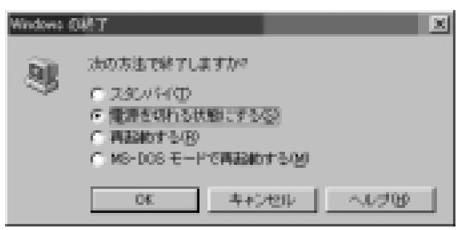
12 メッセージが表示されたら[OK]をクリックします。

13 ［スタート］ボタンをクリックし、［必ずお読みください］フォルダの中の5つのファイルを必ずお読みください。

電源をOFFするときは

Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、メニューから[Windowsの終了]を選びます。「電源を切れる状態にする」をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。自動的に電源がOFFされます。





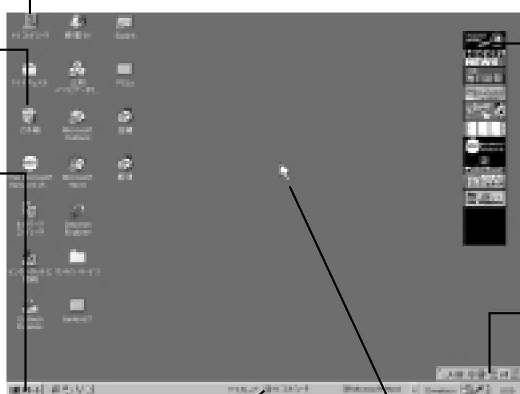
8 Windows®の使いかた

Windows®は、アイコンやボタンをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウからウィンドウへ、文字や画像のコピーが簡単にできます。また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行できます。ここでは、アプリケーションの起動方法などWindows®の基本的な操作方法について説明します。詳しい使いかたについては、付属のWindows®のマニュアルや、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

Windows®の画面について

電源をONにするとWindows®の起動画面が表示され、しばらくするとアイコンやタスクバーと呼ばれるものが表示されます。この画面を「デスクトップ」といいます。Windows®では、このデスクトップ上でアプリケーションを実行し、いろいろな作業を行います。

マイコンピュータアイコン
ドライブのアイコンが表示され、中にあるファイルやフォルダを見ることができます。



ごみ箱アイコン
削除したファイルやフォルダを一時的に保管しておく場所です。

スタートボタン
クリックすると階層メニューが現われます。アプリケーションを実行したり、いろいろな設定を行うコントロールパネルやファイルを操作するエクスプローラなどを起動できます。
(➔36ページ)

チャンネルバー
新たにチャンネルを購読したり、購読しているチャンネルを表示します。

MS-IME98
日本語入力システムMS-IME98のツールバーです。

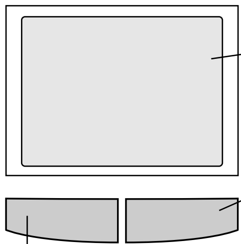
クイック起動バー
アイコンを1回クリックするだけで、すばやくアプリケーションを起動できます。インターネット・エクスプローラ関係のボタンが並んでいます。

タスクバー
実行されているアプリケーションを切り替えることができます。右端には時計などが表示されています。
(➔36ページ)

マウスポインタ
アイコンやメニューなどを選んだり、ウィンドウの位置や大きさを変えることができます。
(➔35ページ)

クリックとダブルクリック

Windows®では、文字を入力する以外のほとんどすべての操作を、マウスポインタを使って行い、アイコンやメニューの上にポインタをのせてクリックすることで処理を実行できます。
クリックとは、マウスのボタンを押すことで、本製品には、マウスと同じ役割を果たす「タッチパッド」と左右2つのボタンが装備されています。

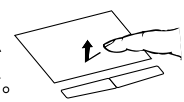


パッド
指を触れて動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

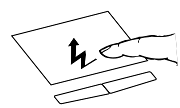
右ボタン
右クリックするときに押します。
Windows®では、右クリックするとショートカットメニューが表示されます。

左ボタン
左クリックするときに押します。クリックは2種類あります。

●クリック・・・・・・ パッドを1回たたくこと（またはボタンを1回押すこと)。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロなどで文字入力の位置を決めるのに使います。



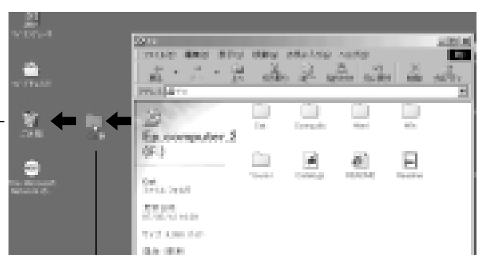
●ダブルクリック・・・ パッドを2回たたくこと（またはボタンを素早く続けて2回押すこと)。アイコンを選んでアプリケーションを起動するときなどに使います。



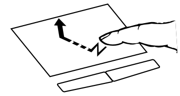
ドラッグ & ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、その場所に置くことです。ファイルやアプリケーションのアイコンなどを別のフォルダへ移動したり、ごみ箱へ入れて削除するときなどは、まず、アイコンの上にポインタをのせ、左ボタンを押したままパッドの上で指を動かします。目的の場所まできたら、そこで左ボタンを離します。

ボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入る

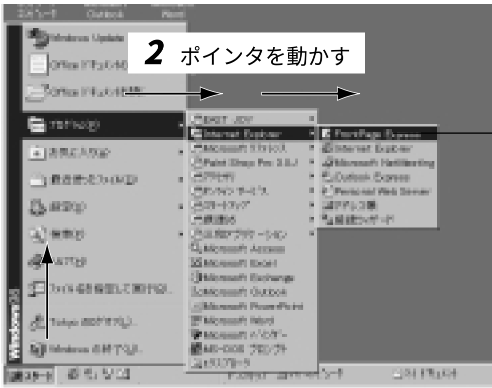


左ボタンを押したまま動かす



アプリケーションを起動する

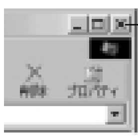
アプリケーションを起動するには、［スタート］ボタンをクリックすると表示されるスタートメニューを使います。
マイコンピュータやエクスプローラから、アプリケーションのアイコンをダブルクリックして起動させる方法もあります。



3 起動するアプリケーションの上でクリック

1 [スタート]ボタンをクリック

アプリケーションを終了する



[閉じる]ボタンをクリック

アプリケーションを切り替える

実行されているアプリケーションはすべて、タスクバーにボタン表示されています。
タスクバーのボタンをクリックすることで、ウィンドウの後ろに隠れているアプリケーションを一番前に表示（アクティブ表示）させたり、最小化されているアプリケーションをウィンドウ表示させます。



アクティブにするアプリケーションのボタンをクリック

ウィンドウを操作する

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにマウスポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上の指を、ウィンドウを移動させたい方向に動かします。

タイトルバー



ウィンドウの大きさを変える

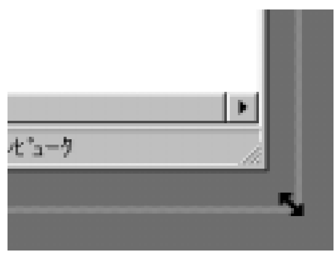


[最大化]ボタンをクリック
画面いっぱいに表示します。元の大きさに戻すときは  ボタンをクリックします。

[最小化]ボタンをクリック
ウィンドウを閉じます。終了とは異なり、アプリケーションは実行されたままの状態です。タスクバーのボタンをクリックすることで再び表示させることができます。

ウィンドウの大きさを自由に変える

ウィンドウの枠にポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で指を動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます(最大化の状態では、変えることはできません)。



1

スタートアップガイド

9 画面の解像度などを変える

解像度・色数・フォントサイズを指定する場合には、［画面のプロパティ］で設定を変更します。

出荷状態の設定

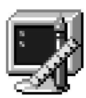
製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	:本体ディスプレイ表示のみ
デスクトップ領域(解像度)	:1024×768ピクセル
カラーパレット（色数）	:High Color(16ビット)65,536色
フォントサイズ	:小さいフォント・・・16ドット

設定を変更する

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの［設定］-［コントロールパネル］を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[設定]を選びます。



Note **表示させるディスプレイを変えるには**

一時的に変更する場合は、Fn+F3を押すと(本体ディスプレイ→外部CRT→同時表示)の順で切り替わります。常時一定の表示を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行います。

なお、同時表示の場合は本体ディスプレイ用表示回路の動作が、外部CRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 各設定を変更します。

デスクトップ領域(解像度)は、本体ディスプレイ表示の場合「1024×768ピクセル」「800×600ピクセル」、「640×480ピクセル」に加え、「ディスプレイの種類」の設定を変更することにより、「1280×1024ピクセル」も選ぶことができるようになります。



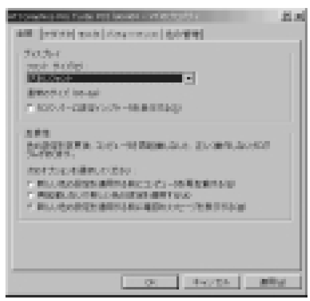
①色　表示する色数を選びます

256色
High Color(16ビット)・・・65,536色
True Color(32ビット)・・・1677万色

②画面の領域　デスクトップの大きさ(解像度)を選びます。

640×480ピクセル
800×600ピクセル
1024×768ピクセル
1280×1024ピクセル

4 ［設定画面］の[詳細]をクリックして、[全般]タブを選択します。



フォントサイズ　表示するフォントサイズを選びます。

小さいフォント
大きいフォント(640×480ピクセルの場合は選択できません)

5 [OK]をクリックします。

6 ［設定画面］の[閉じる]をクリックします。

Note **「画面のプロパティ」での「画面の領域」と「色」の対応は下記の通りです。**

画面の領域	色
640×480ピクセル	256色〜True Color(32ビット、1677万色)
800×600ピクセル	256色〜True Color(32ビット、1677万色)
1024×768ピクセル	256色〜High Color(16ビット、65,536色)
1280×1024ピクセル	256色

色・画面の領域・フォントサイズを変更した場合

再起動する必要があります。[はい]をクリックします。



画面の領域(解像度)のみ変更した場合

サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックすると数秒後に変更されます。



▼

変更したサイズを保存するときは、[はい]をクリックします。



Note　外部ディスプレイに表示させるときは

Windows®をいったん終了させ、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコンフィグレーションでディスプレイ表示の設定を行ってからWindows®を起動します。(➔72ページ)

10 省電力機能を設定する

省電力機能として、Windows９８が持つ「スタンバイ機能」と、本製品が持つ「HDDサスペンド機能」があります。
ここでは、これらの2つの省電力機能の使いかたについて説明します。

スタンバイ機能の設定

Windows９８には、CPUスピードを落とし、ハードディスクドライブ、本体ディスプレイ、本体ディスプレイのバックライトの電力消費を最少にする「スタンバイ機能」があります。
スタンバイ機能は、少しの間席をはずすときなどに、バッテリの浪費を抑えるのに役立ちます。

スタンバイ機能は、次の手順で設定します。

手動でスタンバイモードに入る方法

1 Windowsの[スタート]ボタンをクリックし､メニューから[Windowsの終了]を選択します。

2 [Windowsの終了]ダイアログボックスが表示されるので、[スタンバイ]をチェックし、[OK]をクリックします。

自動的にスタンバイモードに入る方法

1 Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、メニューから[設定]-[コントロールパネル]を選択します。

2 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されるので、[電源の管理]アイコンをダブルクリックし、[電源の管理のプロパティ]ダイアログボックスを表示させます。

3 [電源設定]タブを選択し、[電源設定]欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

4 「ポータブル/ラップトップの電源の設定」欄のそれぞれの時間を設定し、[OK]をクリックします。

設定した時間コンピュータを操作しないでいると、自動的にスタンバイモードに入ります。
スタンバイモードからもとの状態に戻すには、キーボードやマウス(外部を含む)などを入力します。

Note **本機のスタンバイは次の状態になります。**

・各種周辺ICはパワーダウンモード
・HDD、CD-ROMはスタンバイモード
・バックライトはOFF
・CPUはアイドル

サスペンド機能の設定

本製品のサスペンド電源をOFFにすると現在の状態をメモリ(本製品ではHDD)に保存して、電源ONしたときには、OFFにする前の状態に復帰する「サスペンド機能」が搭載されています。サスペンド機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロをいったん終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。

本製品のサスペンド方式は、HDDの中にSAVEエリアとして特定のパーティションまたはファイルを作成し、そのエリアに復帰するための情報を書き込み、電源をOFFします。
レジュームするときは、そのエリアの情報を読み込み、元の状態に戻します。
利点は、サスペンド中の消費電力は電源OFFと変わらないことです。
欠点は、HDDへの読み書きを行うため処理時間がかかることです。

手動でサスペンドモードに入るには、スリープボタンを押します。

自動でサスペンドモードに入るための設定方法は、このマニュアルの第5章「システムの設定を変える(BIOS)」の「パワーマネージメント機能の設定」を参照してください。

サスペンドモードからレジュームするには、電源スイッチを左へスライドさせます。

⚠注意 **Windows®NTでは、サスペンドモードは使用できません。**

Note **サスペンド機能とレジューム**

サスペンド状態から再度電源をONにし、作業を中断した状態まで復帰することを、レジュームといいます。

11 スピーカの音量を設定する

スピーカの音量の調節

本体には、モノラルスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量を調節するには、次のようにします。

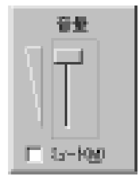
Windows®でスピーカの音量のみ調節するとき

タスクバーの を左クリックする



▶

つまみをドラッグして調節する(「ミュート」をチェックすると音声が消えます)



Windows®で左右のバランスや音源ごとに調節するとき

タスクバーの を右クリックする



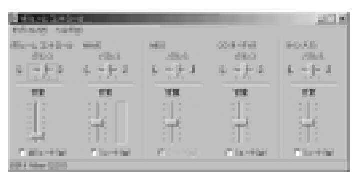
▶

[音量コントロールを開く]を左クリックする



▼

ボリュームコントロール(ミキサー)の各音源のつまみをドラッグして調節する



音量の調節は本体側面のボリュームつまみでも調節が可能です。
使用するアプリケーションおよびPCカード、モデムカードによっては別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上、調節してください。

12 フロッピーディスクドライブユニットを取り付けるには

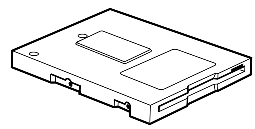
本製品には、フロッピーディスクドライブユニットが付属しています。
ここでは、フロッピーディスクドライブユニットの取り付けと取り外しの方法について説明します。

フロッピーディスクドライブユニットとは・・・

フロッピーディスクからデータを読み出したり、アプリケーションをインストールするとき、フロッピーディスクにデータを保存するときに使用します。

フロッピーディスクからデータを読み出したり、アプリケーションをインストールするとき、フロッピーディスクにデータを保存するときは・・・ ▶

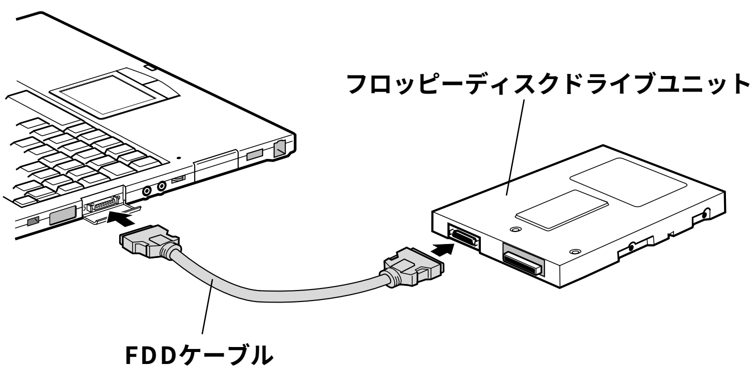
フロッピーディスクドライブユニット



⚠注意 **FDD LEDが点灯しているときにディスクを取り出さないでください。データが破壊されるおそれがあります。**

取り付けと取り外し

付属のFDDケーブルを使って、フロッピーディスクドライブユニットを外付けにします。



⚠注意

- **接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で接続することはできません。**
- **取り外しの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。**
- **フロッピーディスクドライブユニットを外付けで使用する場合、フロッピーディスクドライブユニットの上に物を載せたり、衝撃を加えないでください。故障の原因となります。**

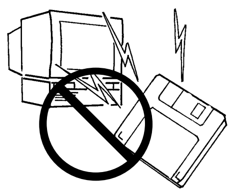
13 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブが付属しています。ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

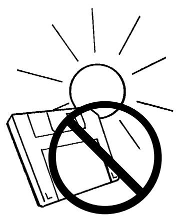
フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点に、十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、コンピュータの電源をOFFにする前に必ずドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

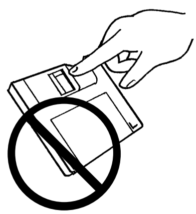
⚠ 注意



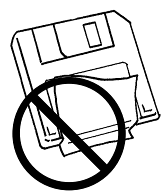
テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。



内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。



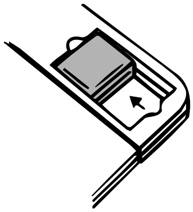
ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます。)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

Note **読み書きできるフォーマットは?**

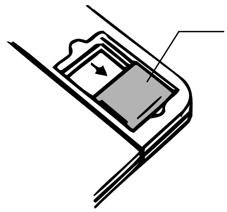
出荷時の状態では、2DD(両面倍密度倍トラックタイプ)の720KB、2HD(両面高密度倍トラックタイプ)の1.44MBおよび1.2MBの各フォーマットのフロッピーディスクを読み書きできます。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトを行うにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。



書き込み可能状態

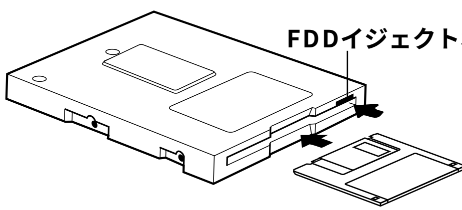


書き込み禁止状態

●書き込み禁止ノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
●書き込み禁止ノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、下図の矢印方向に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが出ます。



フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

Note **1.2MBでのフォーマットは？**

1.2MBのフロッピーディスクのフォーマットは行えません。1.2MBのフロッピーディスクを認識可能にする、3モードドライバ（出荷時インストール済）はリード/ライトのみをサポートするものです。また、1.2MBのディスクから起動することもできません。

3モードドライバはWindows®98上でのみサポートしており、MS-DOS上ではサポートしていません。

第2章

キーボード操作になれよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作になれていない方は必ずお読みください。

1 キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行う役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。



キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

文字入力キー

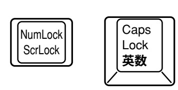
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。
1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、Caps Lock Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使い方については、53ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(アミの部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

Note **ロック状態について**

キーには、1回押すごとに状態が固定されてロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りがあります。
キーの中でも右の2種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。(➔23ページ)



システムファンクションキー(アミの部分)

制御キーの一つである[Fn]キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、コントラストを調節できます。

ディスプレイの輝度(バックライト)を変える

[Fn] + [F5]

[F5]を1回押すごとに、輝度(バックライト)を4段階で調整できます。輝度が最大になると、次にキーを押すと輝度は最小に戻ります。

本体ディスプレイ表示か外部CRT表示かを切り替える

[Fn] + [F3]

[F3]を1回押すごとに、「LCD」→「CRT」→「LCD＆CRT」の順で表示デバイスを切り替えます。ただし、CRTを接続していないときは、常に「LCD」を表示します。(➔ 72ページ)

アプリケーションキー

タッチパッドの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

ウィンドウズキー

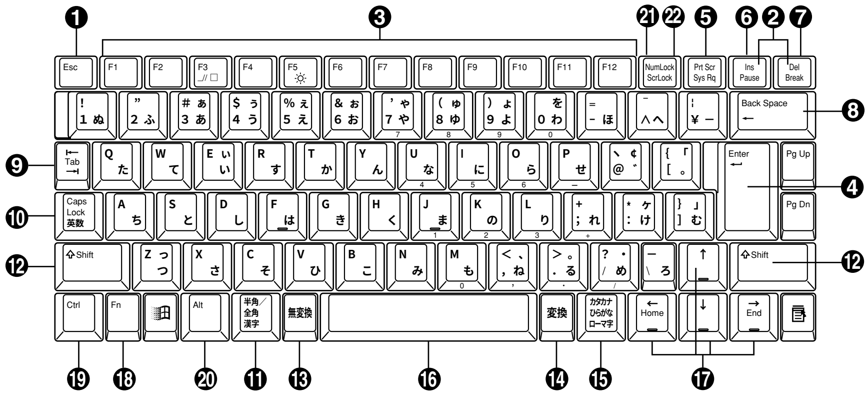
単独で押すとWindows®の「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows®の代表的な機能がすぐに使えます。

キー	機能
+[F1]	Windows®のヘルプを表示
+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
+[E]	エクスプローラの起動
+[F]	ファイル検索起動
+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面表示
+[M]	ウィンドウの最小化
+[R]	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを表示
+[Pause]	「システムのプロパティ」ダイアログボックスを表示

Note　Windows®でサポートされないキーについて

文字入力キーのうち、£、々、¬、¢、『 、』 、ヶ、¦の8つの記号はキーボードから入力できません。これらの文字については、日本語入力システムの文字パレットなどの機能を使い、文字を入力してください。なお、˜ の文字は[Shift]+[^]で入力できます。

各キーの機能



中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶Esc(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause(ポーズ)キー、Break(ブレーク)キー

Fnキーを併用することで、実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー

F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行することができます。

画面のハードコピーをとったり、Windows®の画面を取り込むのに使います。

❺PrtScr(プリント・スクリーン)キー

Windows®を使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❾Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tabキーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。アルファベットを入力するときの文字種を切り替えることもできます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。

⓫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows®98の日本語入力システムMS-IME98では、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン、オフになります。Windows®NTでは1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、Altキーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくないときに押します。

⓮変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと切り替わります。

⓰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース（空白）を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓱カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向にカーソルを移動するときに使います。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲Fn(エフエヌ)キー

ファンクションキー上に青い文字で表記されている機能を使うときに、同時に押します。

⓳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

⑳Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

キーボードの機能を変えることができます。

㉑NumLock(ニューメリックロック)キー【ロックされます】

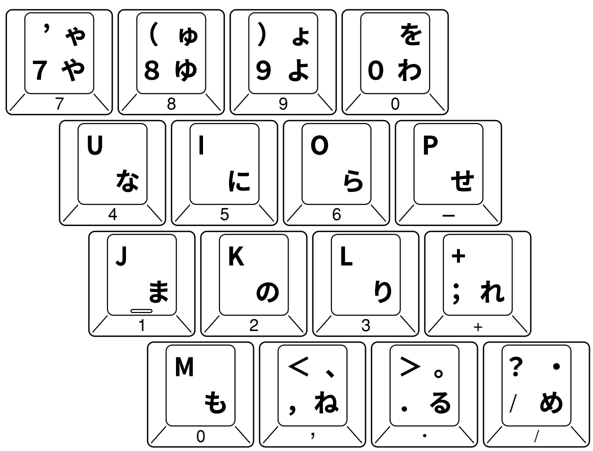
このキーが押されていると、キーボードの右半分を数字キーとして使えるようにしたり、ScrLock、Pause、Break、Home、Endキーを使えるようにします。

㉒ScrLock(スクロールロック)キー【ロックされます】

キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、zキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、NumLockキーを押すことで、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。



2 文字を入力する

入力方法について

ローマ字入力とかな入力

ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のかな文字や漢字を入力する方法です。

たとえば、「か」を入力するときは[K]と[A]を続けて押すことで「か」が入力できます。
かな入力は、入力するキーをそのまま押してかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
どちらの方式で日本語入力システム(IME)を起動するかは、[MS-IME98のプロパティ]の中で設定します。

また、ローマ字入力のときに[Ctrl]と[英数]を同時に押すと、カナキーがONになり、一時的にかな入力できるようになります。(かな入力のときは、カナキーのON/OFFを切り替えるだけで、ローマ字入力にはなりません。)

文字の種類と入力モード

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。文字の種類を変える方法には2通りあります。

・入力前に文字の種類を決めておく ‥切替キーを押すか、ツールバーの[入力モード]ボタンでモードを選んでから入力する

・入力後に文字の種類を決める ‥‥‥全角ひらがな・カタカナモードで文字を入力してから[F6]～[F10]キーで希望の文字種に変換する

モード	画面表示	切替キー	変換キー
全角ひらがな	あ	[ひらがな]	[F6]
全角カタカナ	ア	[Shift] + [カタカナ]	[F7]
半角カタカナ	ｱ	－	[F8]
全角英数	Ａ	[英数]	[F9]
半角英数	A	[英数] [半角/全角]	[F10]

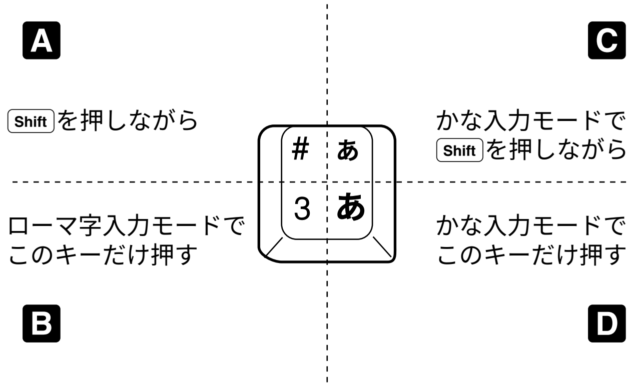
※ひらがなと漢字には全角文字しかありません。また、半角カタカナ・半角英数から全角文字に切り替えるときは[半角/全角]キーを押します。

漢字の入力

日本語入力システム(IME)が立ち上がっているときに、ひらがなで入力してから[変換]キーを押すと漢字に変換されます。もう一度[変換]キーを押すと別の漢字が表示され、さらに[変換]キーを押すと候補一覧が表示されます。詳しい操作方法については、付属のWindows®マニュアルのMS-IME98の項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CapsLock Shift NumLock ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。



文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがな(あ、い、う)				
カナ入力		あ	ひらがな	文字キー D
ローマ字入力		あ	ひらがな	文字キー A
小さいひらがな(っ、ゃ、ゅ、ょなど)				
カナ入力		あ	ひらがな	Shift+文字キー C
ローマ字入力		あ	ひらがな	文字キー A の前に X
大きいカタカナ(ア、イ、ウ)				
カナ入力		ア ア	Shift+カタカナ	文字キー D
ローマ字入力		ア ア	Shift+カタカナ	文字キー A
小さいカタカナ(ッ、ャ、ュ、ョなど)				
カナ入力		ア ア	Shift+カタカナ	Shift+文字キー C
ローマ字入力		ア ア	Shift+カタカナ	文字キー A の前に X
アルファベット小文字(a、b、cなど)＊1				
ローマ字入力		A A	英数	文字キー A
アルファベット大文字(A,B,Cなど)＊1				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	A A	英数	Shift+文字キー A
	連続して入力	A A	Shift+英数	文字キー A
かな記号(。,、,・,「,」など)				
カナ入力・ローマ字入力		あ ア ア	ひらがな	記号キー A B C
英記号(! ,@ ,# ,$,% ,^ ,& ,*など)＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		Shift+記号キー A B C
数字＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		数字キー B ＊2

＊1　カナ入力の場合は、カナキーをOFFに切り替えてから入力します。

＊2　NumLockキーを押すことにより、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

大文字/小文字モードに固定するには

Shiftキーを押しながらCapsLockキーを1回押すと、「CAPSロック」がON・OFFされ、大文字固定入力(ON)と小文字固定入力(OFF)が切り替わります。ON・OFFの状態は、本体のステータスLEDか、ツールバーのインジケータに示されます。

1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

Shiftキーを押しながらアルファベットキーを押すと、固定入力のモードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードでShiftキーとAを同時に押すと「a」を入力できます。

MEMO

第3章

マルチメディアを楽しもう

Windows®のマルチメディア機能、および本製品に搭載されているサウンド機能の使いかたなどについて説明しています。

1 サウンド機能を使う

本製品には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やモノラルスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

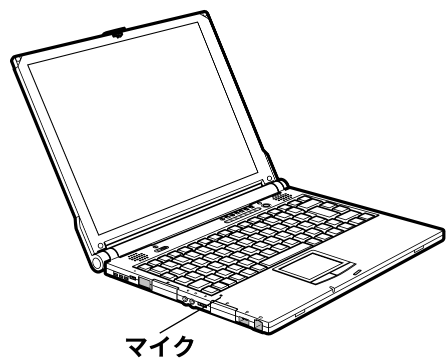
内蔵スピーカについて

本体にはモノラルスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の6種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、Windows®のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
PCカード	PCカード(モデムカードなど)から発生する音声です。 音声出力機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	内蔵マイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。
CD-ROM/DVD-ROM	ベースステーション装着時のCD-ROMからの音声です。

内蔵マイクについて

本体上面にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。



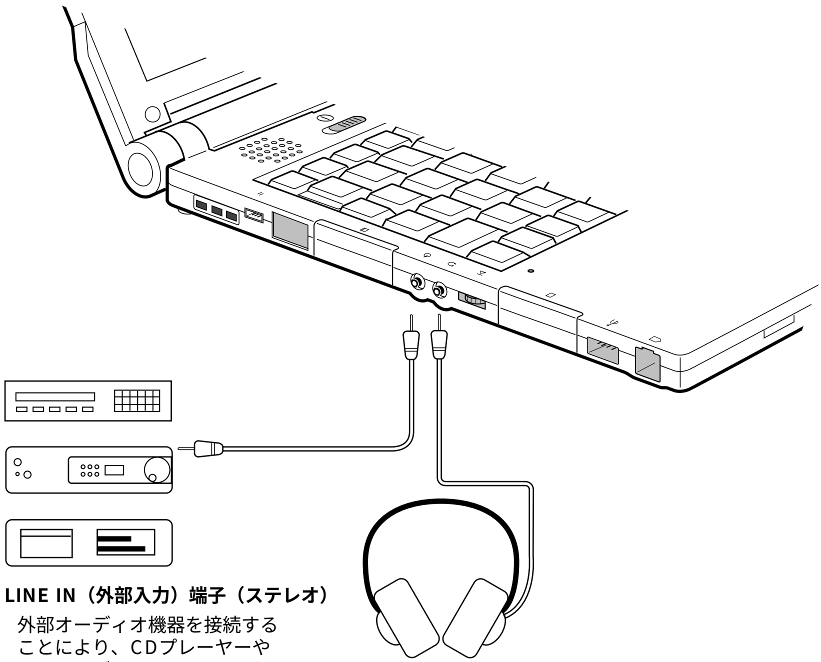
⚠注意 **内蔵マイクのボリュームを最大にして録音すると、スピーカとハウリングを起こして正しく録音されない場合があります。適切なボリュームで録音してください。**

Note **音量を調節するには**

スピーカの音量は、タスクバーの をクリックし、表示されるボリュームコントロールで調節できます。
また、本体側面のボリュームつまみでも調節できます。

外部オーディオ機器を接続する

本体の左側面には、ヘッドフォン、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードを用意してください。



LINE IN（外部入力）端子（ステレオ）

外部オーディオ機器を接続することにより、CDプレーヤーやカセットデッキ、ラジオなどからの音声をコンピュータに取り込むことができます。

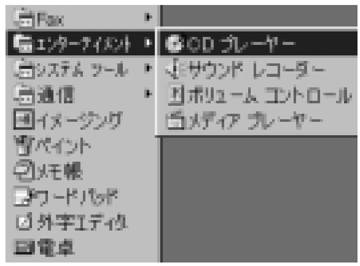
ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続することにより、コンピュータから出力される音声をステレオで聞くことができます。
外部スピーカをつなぐ場合は、アンプなどを使用してください。

2 マルチメディア機能を使う

Windows®には、マルチメディアを楽しむためのいろいろな機能が用意されています。ここでは、これらについて説明します。

マルチメディアを楽しむツールは、[スタート]ボタンをクリックし、メニューの［プログラム］-［アクセサリ］-［エンターテイメント］から起動します。



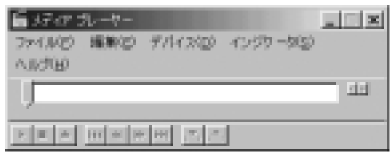
CDプレーヤー

音楽用のCDを再生するプレーヤーです。CD-ROMドライブが接続されている状態で、ディスクをCD-ROMドライブにセットするだけで自動的に起動し、再生させることができます。
CD-ROMを使用するときは、ベースステーション(別売)が必要です。(➔ 96ページ)
他のアプリケーションと同時に使えますので、お気に入りの音楽を聴きながらワープロで文章を書くといったこともできます。また、アルバムタイトルやアーティスト名などを登録したり、好きな曲だけを選んで再生させるといったことも可能です。



メディアプレーヤー

WAVフォーマットのサウンド、Video for Windowsで作られたAVIフォーマットのビデオなどを再生するプレーヤーです。この他にも、デバイス(周辺機器やドライバ)を追加することによりMIDIファイルで音楽を演奏したり、MPEG形式のビデオを再生させることもできます。
インストールされているWindows®には、いくつかのサンプルが用意されており、すぐに楽しむことができます。



サウンドレコーダー

マイクやLINE IN端子から入力された音声を編集し、録音することができます。録音したサウンドは、WAV形式のサウンドファイルとして保存できます。再生速度を変えたりエコーをかけることもでき、オリジナルのサウンドを簡単に作り出せます。また、本製品にはマイクが内蔵されていますので、ボイスメモとして活用することも可能です。



Note **Video for Windowsとは？**

マイクロソフト社が開発したデジタル動画編集再生ソフトです。ビデオカメラで撮影した映像などをビデオキャプチャーボードを介してコンピュータに取り込み、編集してファイル(拡張子はAVI)に保存できます。Windows®には、再生機能のみ搭載されています。

Note **MIDI(ミディ)**

電子楽器を外部からコントロールするための標準インターフェイスです。コンピュータに市販のMIDI音源(様々な楽器の音色が記憶されている)を接続し、MIDIファイル(拡張子はMID・RMI)をメディアプレーヤーで読み込むことにより、音楽を高音質で演奏させることができます。

ボリュームコントロール

マイクやLINE IN端子から入力された音声、WAVファイルやMIDIファイルなどの音声、および音楽用CDから出力される音声の音量やバランスを、音源ごとに調節することができます。



第4章

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、メモリを増設する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

1 PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠したPCカードスロットを搭載しています。ここでは、PCカード規格および装着方法とPCカードを使うときの注意事項などについて説明します。

カード規格について

PCMCIA（Personal Computer Memory Card International Associationの略）は、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカーが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。
PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、Type Ⅰ、Ⅱのカードを同時に2枚を使うことが可能です。Type Ⅲのカードは使用できません。

⚠注意 **PCカードを使うには、コンピュータに、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。**
デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

CardBus規格

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本体のPCカードスロットは左右ともにCardBusをサポートしています。

カードサイズについて

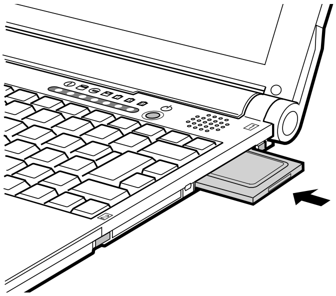
PCカードには、現在、TYPEⅠ(厚さ3.3mm)、TYPEⅡ(厚さ5.0mm)、TYPEⅢ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPEⅠまたはTYPEⅡのカードを2枚装着することができます。
TypeⅢのカードは使用できません。

カードの抜き差し

PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードを差し込むと、どのような種類のカードが差し込まれたかWindowsが自動的に判断し、デバイスドライバを組み込むための準備をします。
PCカードを利用するアプリケーションを実行する前には、PCカードを装着しておいてください。

カードを装着する

1 カードスロットは左右2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタが付いているほうを奥にして、ゆっくりと差し込みます。



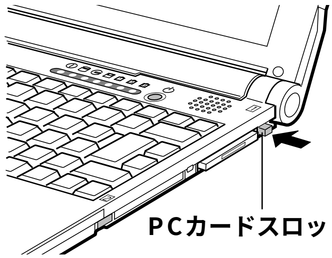
⚠注意 **異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。**

2 PCカード用のデバイスドライバがコンピュータに組み込まれていれば、カードが認識され、ビープ音が「ピポ」と鳴ります。
認識されないときは、ビープ音が「ブ」と鳴るので、PCカードがしっかりと差し込まれているか、また、正しいデバイスドライバを使用しているかどうかを確認してください。

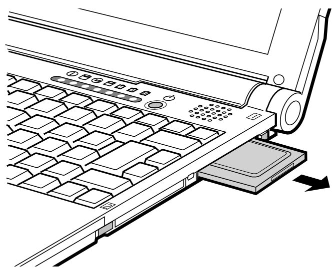
カードを取り外す

1 ［コントロールパネル］の中の［PCカード（PCMCIA）］のプロパティ画面上から取り外すカードを選択して、［終了］をクリックします。

2 取り外したいカードが装着されている側のPCカードイジェクトボタンを押します。



3 PCカードイジェクトボタンを押すと、カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。



⚠注意 **PCカードを取り外す前に、HDD LEDやFDD LEDが消えていることを確認してください。**
また、システム動作中にPCカードを取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

Note **ビープ音が鳴らないときは**

タスクバーの をクリックし、ボリュームコントロールパネルで音量を調整します。

モデムを使う

モデムカードを使用して電話回線につなぐと、Windows®の通信ソフトを使ってデータの送受信を行うことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信もできます。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

ハイパーターミナルを使うときの注意

ハイパーターミナルを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

・ハイパーターミナルのCOMポートは自動的に設定されるか、モデムのインストール時に設定されます。設定を変更したい場合は、コントロールパネルの[モデム]で設定してください。

LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本製品をLANに接続できます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができます。装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、認識方式が決められています。この場合、カード認識用のデバイスドライバをインストール後、設定作業が必要になります。
LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行ってください。

ネットワーク環境でお使いの場合、本製品を次のように設定してくだい。
・システムコンフィグレーションの「Power Savings」の項目はすべて「Disabled」に設定します。
・Windows98の電源の管理のプロパティで電源設定の各項目を全て「なし」に設定します。

Word **I/Oアドレス**

CPUがデータをやり取りするために使用するチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®98ではプラグ・アンド・プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

Word **IRQ(割り込みチャネル)**

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®98ではプラグ・アンド・プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

2 メモリを増設する

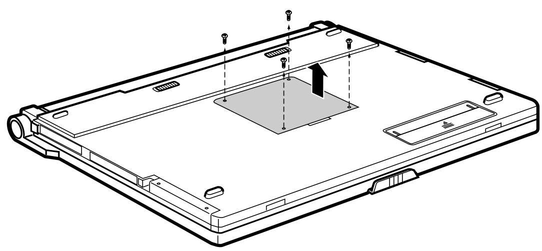
拡張RAMモジュール(32MB、64MB、128MB)の組み合わせにより、最大256MBまで増設できます。

⚠注意 **拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。他社製のRAMモジュールを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。**

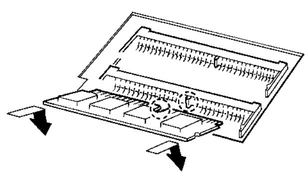
拡張RAMモジュールの装着

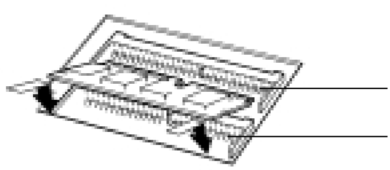
⚠注意 **装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドが有効になっている状態で装着することはできません。**

1 本体底面のメモリカバーのネジを外して、カバーを開けます。



2 拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。





3 手順1で取り外したメモリカバーを閉め、ネジでしっかりと止めます。

4 電源をONにすると、RAM容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

5 Ctrlキーと Altキーを押しながら Sキーを押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

6 装着された拡張RAMモジュールの容量をシステムが読み込み、自動的に設定が行われます。

7 【Exit】-【Default Setting】-【Save and Reboot】を選び、システムコンフィグレーションメニューを終了させます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える(BIOS)」(➔77ページ)をお読みください。

3 ハードディスクドライブを交換する

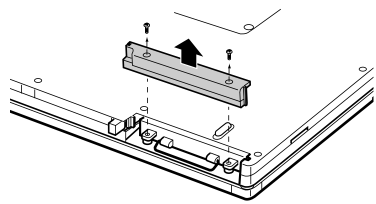
本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて、現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

⚠注意 **ハードディスクドライブを落としたり、乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。**

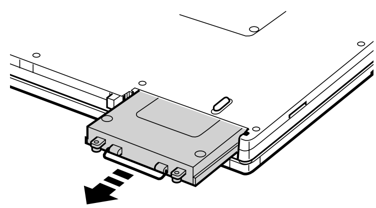
ハードディスクを取り外すには

⚠注意 **交換の前には、必ず本製品の電源OFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。**

1 本体のHDDスロットカバーのネジを外して、カバーを外します。



2 ハードディスクの取っ手を持って引き出します。

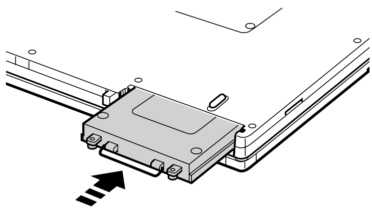


4 システムを拡張する

ハードディスクを取り付けるには

⚠注意 **交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り付けることはできません。**

1 ハードディスクドライブを挿入します。



⚠注意 **ハードディスクドライブの上下に注意して挿入してください。ラベル貼り付け側が下になります。**

2 HDDスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。

3 電源をONにすると、環境が装着前と異なるためにパソコンの再起動を促すメッセージが表示されます。

4 Yキーを押します。

5 システムが装着されたハードディスクの環境を読み込み、自動的に設定が行われます。

システムコンフィギュレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える(BIOS)」(➔ 77ページ)をお読みください。

Note 出荷時に装着されているドライブの内容

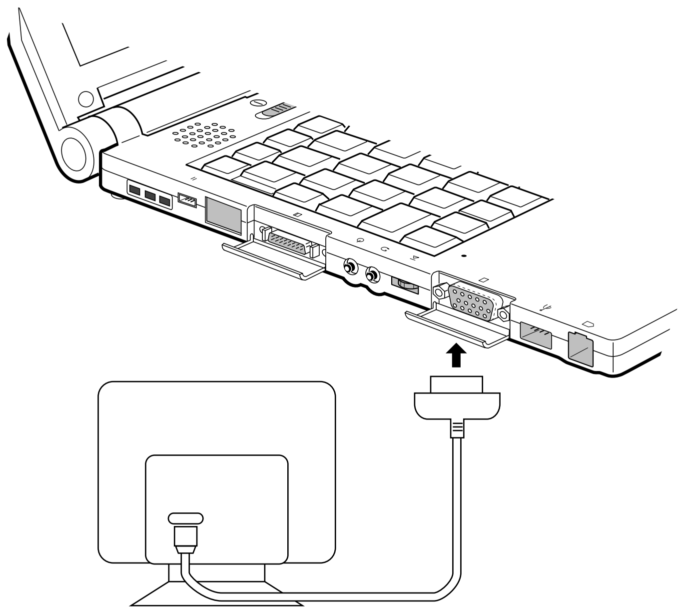
本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブには、サブディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

Note 新しいハードディスクを使用するときは

新しいハードディスクドライブには、Windows®98はインストールされていません。使いはじめる前には、Windows®98のインストールを行ってください。インストールの方法については、添付のWindows®98のマニュアルをお読みください。

4 外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA/SVGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、最大1280×1024ドットの解像度で表示できるようになります。



コンピュータの左側面（ベースステーションと接続時はベースステーション背面）にある外部CRTポートに、外部モニタのケーブルを接続します。
システムコンフィグレーションメニューのVideo Selectの設定が「CRT」または「Simultaneous」の場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。「LCD」になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューで「CRT」または「Simultaneous」の設定にしてください。
システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える（BIOS）」（➔77ページ）の設定をお読みください。

Note 一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F3を1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部CRTのみ→両方同時の順に切り替わります。

⚠**注意**

- **コンピュータ本体の電源を入れてから、外部モニタの電源を入れてください。**
- **外部モニタを接続した場合、Windows®のコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は下記をお読みください。**
- **本体ディスプレイと外部CRTを同時表示する場合、接続する外部モニタは設定したデスクトップ領域（解像度）をサポートしたディスプレイを使用してください。**

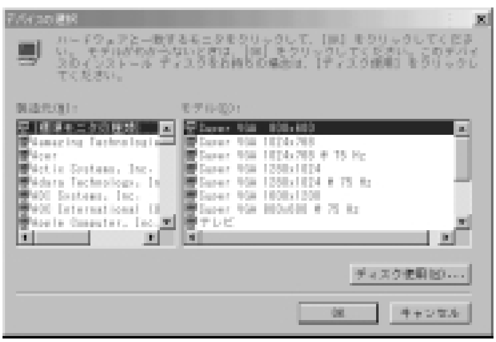
ディスプレイの種類を設定するには

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの［設定］-［コントロールパネル］を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[設定]を選びます。

3 [詳細]をクリックし、「モニタ」タブをクリックします。

4 [変更]をクリックします。

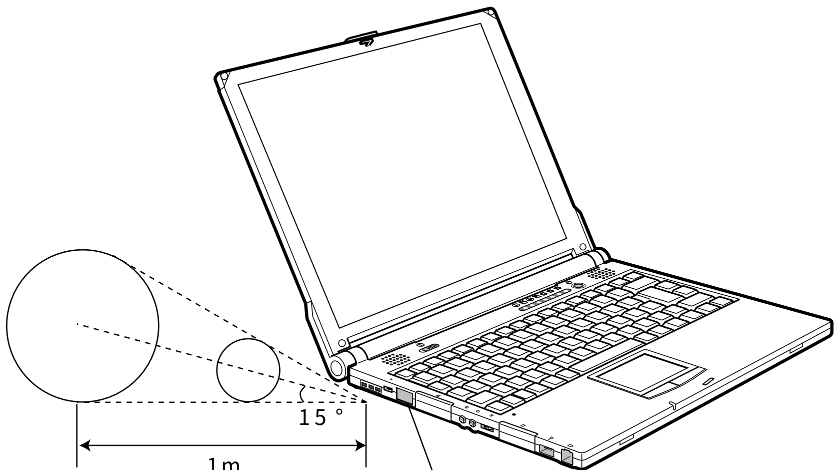


5 使用するディスプレイと一致するものを選択して、[OK]をクリックします。

色数や画面の領域の設定は、38ページをご覧ください。

5 IrDAポートを使う

本製品には、赤外線でデータを送受信するための規格である「IrDA」に準拠したIrDAポートが装備されています。IrDAポートを装備した他の機器とは、ケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。



コンピュータの左側面にあるIrDAポートと他の機器のIrDAポートが向かい合うように配置します。

⚠注意 **IrDAポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m以内になるように配置してください。また、通信中にポート間をさえぎると、通信不能になります。**

6 その他の機器を使う

USB機器について

本製品には、USB対応機器を取り付けるためのポートが装備されています。
USBとは、Universal Sirial Busの略で、シリアルインターフェースの規格です。キーボード、マウス、モデムといった転送速度の低い周辺機器を最大127台まで連結することができます。なおUSBポートを使用するには、接続する周辺装置および利用するソフトウェアが、USBに対応している必要があります。

USB機器の取り付け

本体左側面のUSBコネクタにUSBの接続ケーブルを接続してください。

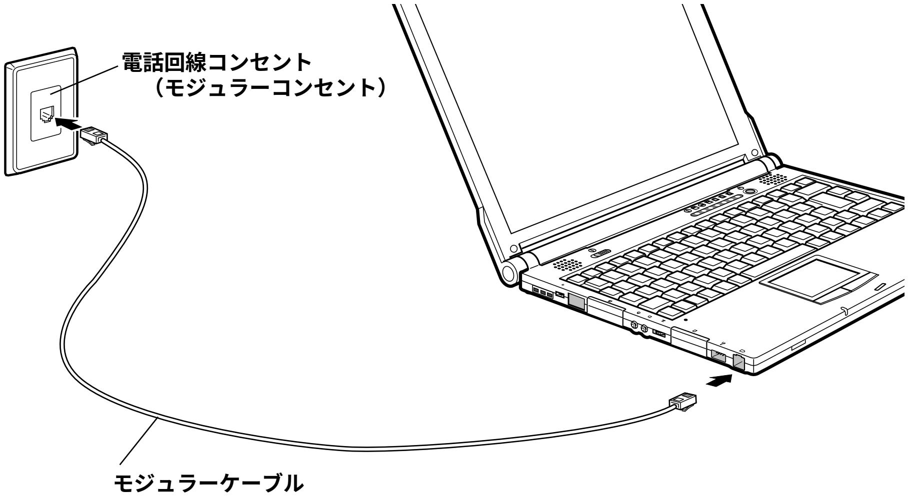
⚠**注意** **接続するUSB機器によっては、USB機器に付属のドライバーをインストールする必要があります。**

電話回線との接続について

本製品には、最高速度56Kbpsに対応した、FAXモデムポートが装備されています。市販または、付属品のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続し、インターネットやパソコン通信、FAXの送受信ができます。

電話回線との接続

本体側面のFAXモデムポートにモジュラーケーブルを接続し、モジュラーケーブルのもう一方を電話回線コンセントに接続します。



MEMO

第5章

システムの設定を変える（BIOS）

WinBook Bird/Xの内部プログラムであるシステムコンフィグレーションを使って、本体システムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について説明しています。
必要に応じてお読みください。

1 システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような機能の設定が行えます。

- **カレンダの日付と時間を設定する(➔80ページ)**
- **起動方法と起動ドライブを設定する(➔81ページ)**
- **通信ポートを設定する(➔81ページ)**
- **パラレルポートの動作モードを選択する(➔82ページ)**
- **パスワードを設定する(➔83ページ)**
- **ディスプレイの表示を設定する(➔83ページ)**
- **システムの情報を表示する(➔83ページ)**
- **設定をデフォルト状態に戻す(➔84ページ)**
- **パワーマネージメント機能を設定する(➔85ページ)**
- **サスペンド機能を設定する(➔86ページ)**
- **スタンバイ機能を設定する(➔86ページ)**
- **レジューム機能を設定する(➔87ページ)**

コンピュータの電源をONにすると、「パワーオン・セルフテスト(電源投入時の自己診断テスト)」が始まります。

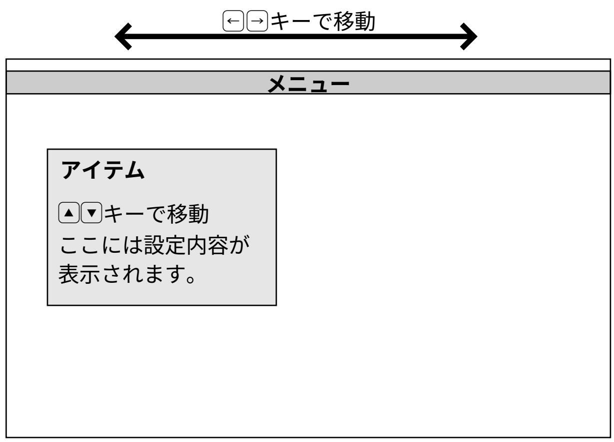
メニューと操作方法について

メニューを表示させるには…

システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、コンピュータの電源をONにした後、画面に「CTRL-ALT-S to Enter Configuration Utility」と表示されている間に、[Ctrl]キーと[Alt]キーを押しながら、[S]キーを押します。
Windows®が起動している状態からは、システムコンフィグレーションは表示できません。

操作方法は…

画面の一番上にはメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。[Alt]キーを押すと、カーソルが【Startup】メニューに移ります。設定項目は[←][→]キーでメニューを選び、[↓][↑]キーを押して、アイテム間を移動し、[Enter]キーで選択を確定します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。各項目の後に「►」がついているものはさらにサブメニューが含まれていることを示しています。サブメニュー内では、[Tab]キーでアイテム間を移動します。



《項目の選択・設定の方法は》

・メニューを選択するには……………………………………………………←→キーで移動
・アイテムを選択するには……………………………………………………↑↓キーで移動
・サブメニュー内を移動したり、
　次の行や選択項目に移動するには……………………………………Tab
・サブメニューへ移動するには………………………………………………Enter↵
・サブメニュー・メニューからの退避………………………………………Esc
・設定を変更するには……………………………………………………………↑/↓
・設定を確定するには……………………………………………………………Enter↵

《設定を変更して終了させるときは》

【Exit】-【Save and Reboot】を選択してEnter↵キーを押すと、変更した設定内容がメモリに記憶され、システムコンフィグレーションが終了し、システムが再起動します。

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit】-【Exit (No Save)】を選択してEnter↵キーを押すと、変更した設定内容が記憶されずに、システムコンフィグレーションが終了し、システムが再起動します。

日付と時刻を設定する

選択項目はメニュー、アイテムの順で表記しています。

● カレンダの日付を設定する

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている日付(日/月/年)が表示されますので、Tabキーで項目を移動し、↑/↓キーで日付を入力します。(数字キーで直接入力することもできます。)

なお、このシステムは西暦2000年問題に対応しています。

● カレンダの時間を設定する

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている時刻(24時間制)が表示されますので、Tabキーで項目を移動し、↑/↓キーで時間を入力します。(数字キーで直接入力することもできます。)

起動方法を設定する

● 起動ドライブを設定する

【Startup】-【Boot Device】
起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMドライブから選びます。起動優先順位は、「1st Boot Device」、「2nd Boot Device」、「3rd Boot Device」です。現在選択されているドライブの先頭には、「・」が表示されています。
Tabキーで「1st Boot Device」に移動し、↑/↓キーで起動ドライブを指定してスペースキーを押すと、起動ドライブに指定することができます。「2nd Boot Device」、「3rd Boot Device」についても同様の操作を行います。

各種入出力ポートを設定する

● シリアル通信／赤外線通信ポートを選択する

【Components】-【COM Ports】-【COM A I/O Settings】
【Components】-【COM Ports】-【COM B I/O Settings】-【Mode Setting For Com B】
シリアル通信ポート(Serial Port)は【COM A I/O Settings】で設定します。通常はCOM1(3F8h)で、使用するアプリケーションにより変更が必要なときはCOM2(2F8h)、COM3(3E8h)、COM4(2E8h)から任意に設定できます。IRQチャネルは通常4です。

赤外線通信ポート(IrDA Port)は【COM B I/O Settings】で設定します。通常はCOM2(2F8h)です。次にTabキーで【Mode Setting For Com B】に移動し、↑/↓キーで「IrDA」か「FAST IR」を指定してスペースキーを押します。【DMA Setting For Fast IR】が有効になるのは、【Mode Setting For Com B】で「Fast IR」を選択した場合のみです。使用するアプリケーションにより変更が必要なときはCOM1(3F8h)、COM3(3E8h)、COM4(2E8h)から任意に設定できます。使用しないよう特に設定したい場合は「Disabled」を選びます。IRQチャネルは通常3です。

⚠注意 **シリアルポートと赤外線通信ポートのポート番号は重ならないように設定してください。なお、COM1(3F8h)とCOM3(3E8h)またはCOM2(2F8h)とCOM4(2E8h)は同時使用できません。**

Note 起動ドライブについて

デフォルトでは、ドライブCのハードディスクドライブからWindows®が起動する設定になっています。

Word IrDAについて

IrDAとは、Infrared Data Associationの略で、赤外線データ通信の規格を制定する民間の標準化団体。また一般的には、この団体が標準化した赤外線データ通信の規格(方式)を指しています。

● **パラレル(プリンタ）ポートの動作モードを選択する**

【Components】-【LPT Port】-【Port Definition】-「Extended Capabilities (ECP)」

動作モードは、通常「ECP」に設定します。

入出力デバイスを設定する

● **PS/2マウスを使うかどうかを選択する**

【Components】-【Glide Point Port】

PS/2マウスを使用する場合、▼キーで【Glide Point Port】に移動して、Enterキーを押し、先頭にチェックマークを付けます。この場合は、マウスとグライドポイントの両方が使用できるようになります。チェックマークを外すと、マウスのみが使用できるようになります。

⚠注意 **システムコンフィグレーションで各種のデバイスを「Disable(使用不可)」に設定すると、Windows98®のデバイスマネージャからは、それらのデバイスを使用可能に変更することはできません。デバイスマネージャを活用したいときは、必ず「Disable(使用不可)」以外の設定を選んでください。**

5

システムの設定を変える（BIOS）

Note **パラレルポート**

本製品のパラレルポートはECPモードに対応しており最高2Mバイト／秒の高速データ転送が可能です。
ECPはIEEE1284インターフェースで提唱されている規格です。

パスワードを設定する

● **パスワードを設定する**

【Startup】
-【Set Admin password】
-【Set User password】
ユーザーパスワードを設定するには、あらかじめ「Set Admin password」でアドミニストレータパスワードを設定しておく必要があります。
いずれの場合も、パスワードに使用できるのは英、数字のみで、4文字から8文字の長さで設定します。大文字・小文字は区別されます。

⚠注意 **パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンタまでご連絡ください。**

● **起動時にパスワード入力が必要かどうかを設定する**

【Startup】
-【Set Admin password】
-【Set User password】
アドミニストレータパスワードまたはユーザーパスワードの少なくともどちらか一方を設定すると、システム起動時にパスワードの入力が必要になるよう設定できます。なお、パスワードを入れないとシステム構成が変更できないように設定するには、アドミニストレータパスワードを設定します。

ディスプレイ表示モードを設定する

● **起動時の表示デバイスを設定する**

【Startup】-【Video Select】
「Simultaneous」を選ぶと、画面は外部CRTと本体ディスプレイの両方に表示されます。「LCD Only」を選ぶと本体ディスプレイのみ、「CRT Only」を選ぶと外部CRTのみに表示されます。「Expansion」を選ぶと、垂直および水平拡張設定ができるようになります。

システム情報を表示する

● **BIOSのバージョン情報を表示させる**

【Exit】-【Version Info】
使用しているBIOSのバージョン情報が表示されます。

システムコンフィグレーションのその他の設定

● 設定をデフォルト状態に戻す

【Exit】-【Default Settings】

各項目の設定値をデフォルトに戻します。

各項目のデフォルト値は巻末に一覧で説明しています。

● 設定を画面を開いたときの設定値に戻す

【Exit】-【Restore Settings】

【Restore Settings】を選択して、Tabキーで「OK」に移動し、Enterキーを押します。

2 パワーマネージメント機能の設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのスタンバイ機能・パワーセービング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をHDDに保存するサスペンド機能が搭載されています。ここでは、システムコンフィグレーションメニューを使って、これらの機能を設定する方法について説明します。
パワーマネージメント機能に関する設定は、システムコンフィグレーションメニューの【Power】から選びます。システムコンフィグレーションメニューの操作方法は、78ページを参照してください。

⚠注意 **パワーマネージメント機能を設定した後、設定した内容を有効にするためにコンピュータを再起動してください。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。**
Windows®98には、独自のパワーマネージメント機能(APMやACPI)が備わっており、Windows®98のタイマー設定がBIOS設定より優先されます。

パワーマネージメント機能を設定する

● パワーマネージメントを設定する

【Power】-【Enable Power Saving】

-「Battery Only」	内蔵バッテリのみで動作している場合のみ、パワーセーブ機能が働く
-「Low Power Saving」	処理速度優先
-「Medium Power Saving」	中程度のパワーセーブ
-「High Power Saving」	パワーセーブ最優先
-「Customize Settings」	パワーセーブの時間を設定
-「Suspend Controls」	サスペンドの時間を設定
-「Resume Timer」	サスペンドからレジュームする時間を設定

パワーマネージメントの効率を設定します。【Enable Power Saving】にチェックマークが表示されているときは、パワーマネージメント機能が働きます。チェックマークをはずすと、すべてのパワーマネージメント機能が無効になります。

● ACアダプタ／バッテリ動作時のパワーマネージメントを設定する

【Power】-【Battery Only】
パワーマネージメントをバッテリ駆動の時だけ有効にする(チェックマークあり)か、ACアダプタ動作の時でも有効にするか(チェックマークなし)を設定します。

サスペンド機能を設定する

● **オートサスペンド機能を設定する**

【Power】-【Suspend Controls】-「Suspend Timeout」
サスペンド機能を実行しないときは「Never」に設定します。実行するときは、何分後に実行するかを5～30分の間で設定します。

スタンバイ機能を設定する

● **スタンバイモードにする**

【Power】-【Customize Settings】-「Global Timeout」
システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の電力が低下して、無駄な電力消費を抑えます。時間は1分から16分の間とAlways On (機能しない)で設定します。
キーボードのキーを押したりタッチパッド(マウス)を操作するとスタンバイモードは解除されます。

⚠**注意** **スタンバイで時間を設定しても、設定通りの時間にならないことがありますが、故障ではありません。これは何も入力操作を行わなくても、Windows®98自身が自動処理(HDDの自動保存やその他の監視動作)を行うためで、その処理が行われるたびにリセットされてしまうためにおこる現象です。**

スタンバイモード時のデバイス動作を設定する

● **ハードディスクの電力消費を下げる**

【Power】-【Customize Settings】-「Disk Timeout」
一定時間ハードディスクへのアクセスがないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクの電力消費を下げる機能です。時間は1分から16分の間とAlways On (パワーセーブしない)で設定します。

● ディスプレイ表示を消す

【Power】-【Customize Settings】-「Video Timeout」
一定時間キーボードおよびタッチパッド(マウス)からの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD・CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から15分の間とAlways On (ディスプレーは常に表示)で設定します。

Note　クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にスタンバイの設定を行っていると、稼働状態を正しく検出できないことがあり、スタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、パワーマネージメントを無効(Off)に設定してください。

Note　ネットワークを使っている場合

【Global Timeout】と【Suspend Timeout】の設定項目は、それぞれ「Always On」、「Never」に設定しておくことをおすすめします。

3 設定内容と初期値一覧

メニュー	アイテム	デフォルト設定値	説明
Startup	Date and Time		日付と時間を設定します。
	Fast Boot	チェックあり	メモリテストを省略して、すばやく起動します。
	Boot Device	Hard Disk C	Windowsが起動するドライブの優先順位を指定します。
	Video Select	LCD Only	表示デバイスを指定します。
	・Expansion	チェックなし	水平および垂直拡張設定ができます。
	Set Admin password		アドミニストレータパスワードを設定します。
	Set User password		ユーザパスワードを設定します。
	Simple Boot	チェックあり	クリーン・スタートアップ画面を表示するかしないかを指定します。
Disks	Diskette Drives	1.44Mb	フロッピーディスクドライブの種類を指定します。
	Hard Disk	Auto-ID	ハードディスクドライブの設定をします。
	CD-ROM	Auto-ID	CD-ROMドライブの設定をします。
Components	Com Ports		
	・COM A I/O Setting	COM1, 3F8h, IRQ4	シリアルCOM1ポートを設定します。
	・COM B I/O Setting	COM2, 2F8h, IRQ3	シリアルCOM2ポートを設定します。
	・Mode Setting For COM B	IrDA	赤外線通信を設定できます。
	・DMA Setting For Fast IR	DMA 0	高速赤外線通信を設定できます。
	LPT Port		
	・Port Adress	LPT1, Addr 378, IRQ7	LPTポートを設定します。
	・Port Definition	Extended Capabilities	LPTポートの通信方式を設定します。
	・DMA Setting For ECP Mode	DMA3	ECPモードを選択したときのDMAチャネルを設定します。
	Keyboard Numlock	チェックなし	数字キーの設定をします。
	Keyboard Repeat Rate	10cps	打鍵時のリピート率を指定します。
	Key Delay	1/2 sec	打鍵時の遅延時間を指定します。
	Glide Point	チェックあり	グライドポイントとマウスの使用を設定します。

メニュー	アイテム	デフォルト設定値	説明
Power	Enable Power Saving	チェックあり	パワーセービング機能を有効にします。
	Battery Only	チェックあり	内蔵バッテリ使用時のみパワーセービング機能を有効にします。
	Low Power Saving	チェックなし	処理を最優先します。
	Medium Power Saving	チェックあり	中程度にパワーセーブします。
	High Power Saving	チェックなし	パワーセーブを最優先します。
	Customize		
	・Video Timeout	4 minutes	設定時間後に、画面表示を停止します。
	・Disk Timeout	4 minutes	設定時間後に、HDDを停止します。
	・Global Timeout	4 minutes	設定時間後に、システム全体がパワーセーブ状態に入ります。
	・Suspend Timeout	Never	設定時間後にサスペンドモードに入ります。
	Suspend Controls		
	・Suspend Timeout	Never	サスペンドモードに入るまでの時間を設定します。
	・Low Battery Suspend	チェックあり	バッテリ残量が低下すると、サスペンドモードに入るように設定できます。
	Lid Switch	Suspend To File	液晶パネルスイッチを設定します。
	Cooling Control	Performance Mode	冷却機能を設定します。
Exit	Save & Reboot		設定を保存して、再起動します。
	Exit (No Save)		設定を保存せずに、システムコンフィグレーション画面を閉じます。
	Default Settings		設定を工場出荷時の設定に戻します。
	Restore Settings		設定をシステムコンフィグレーション画面を開く前の設定に戻します。
	Version Info		BIOSのバージョン情報を表示します。

MEMO

第6章

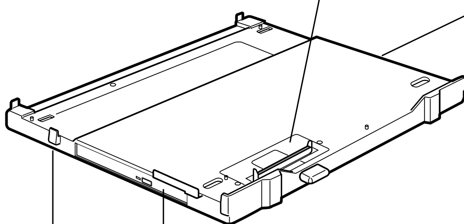
ベースステーションと接続する

ベースステーションの機能や接続方法について説明しています。

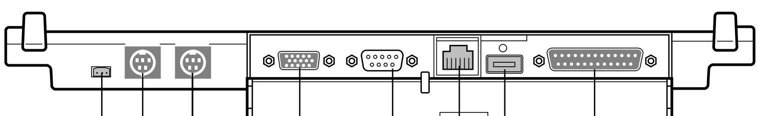
1 各部の名前と機能を確認する

ベースステーション各部の名前とその機能について説明します。

前面/左側面



背　面



❶WinBook Bird/X接続コネクタ

WinBook Bird/X本体底部のベースステーション用コネクタと接続します。

❷フロッピーディスクドライブユニットスロット

WinBook Bird/X付属のフロッピーディスクドライブユニットを挿入します。

❸ステレオスピーカ

ステレオスピーカです。

❹CD-ROMドライブ

24倍速のCD-ROMドライブです。

❺DC入力コネクタ

本体に付属のACアダプタを接続します。

❻マウスポート

PS/2マウスを接続することができます。

❼外部キーボードポート

PS/2外部キーボードを接続することができます。

❽外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。

❾シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。システムコンフィグレーションでシリアルポートの設定を変更できます。(➔ 81ページ)

❿LANコネクタ

LAN用の10Base-T/100Base-TXケーブルを接続します。(➔ 100ページ)

⓫USBポート

USB規格準拠の周辺機器を接続します。(➔ 75ページ)

⓬パラレルポート

プリンタやスキャナなどパラレルポートを使う周辺機器を接続します。

Note **LANとは**

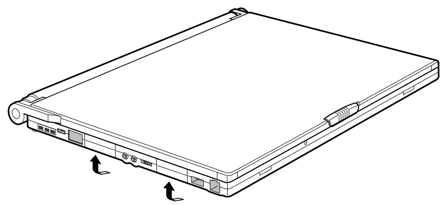
Local Area Networkの略称で、同一構内における複数の
コンピュータを接続したネットワークのことです。

2 WinBook Bird/X本体を接続する

接続するには

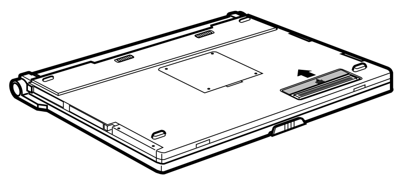
本体底面部のベースステーション用コネクタと、ベースステーション接続コネクタを接続します。

⚠注意 **ベースステーションと接続する前に、本製品の電源をOFFにしてから、本体に接続されているケーブル類をすべて外し、本体左側面のコネクタカバーを必ず閉じてください。**

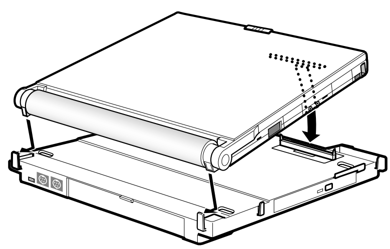


1 コンピュータの電源をOFFにします。

2 本体底面部のベースステーション用コネクタのフタをスライドさせて開きます。



3 ベースステーション後面のツメ(凸部)と、本体後面部のくぼみ(凹部)が合うようにセットします。



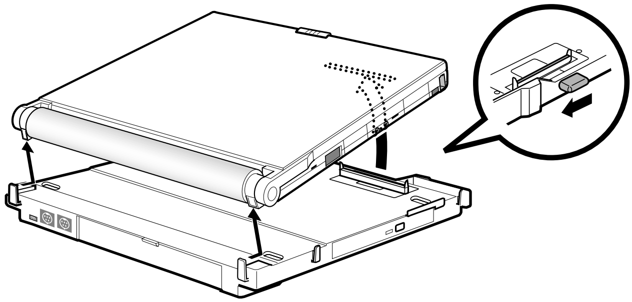
4 本体底面のベースステーション用コネクタとベース上面のWinBook Bird/X接続コネクタが合うようにして、装着します。

⚠注意 **ベースステーションとの接続により、本体のDC入力端子と外部CRTポートおよびケーブル接続によるフロッピードライブは使用できなくなります。ケーブルなどはベースステーションの端子に接続してください。**

6
ベースステーションと接続する

取り外すには

ベースステーションのツメを左へスライドさせたまま、本体を取り外します。

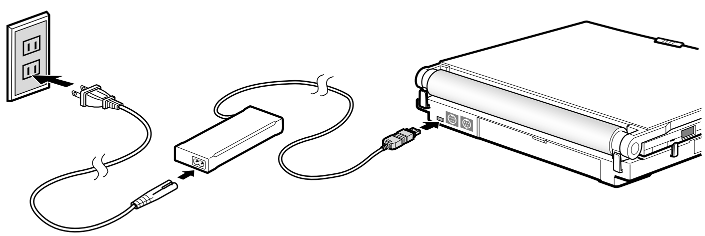


⚠注意

- **取り外しの前には、本製品の電源をOFFまたはサスペンドにしてください。**
- **取り外した後は、本体のベースステーション用コネクタのカバーをスライドさせて閉じてください。なお、Windows98のスタートメニューに［取り外し(E)］というメニューが存在しますが、WinBook Bird/Xの仕様上、この機能は働きません。**

ACアダプタの接続

ベースステーションにACアダプタを接続します。



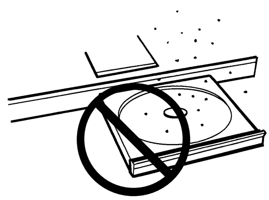
3 CD-ROMを使う

CD-ROMを使う方法について説明します。

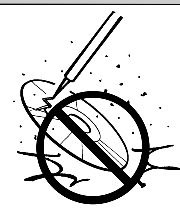
CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

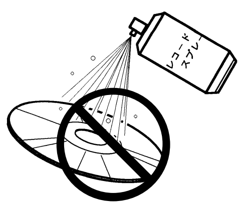
⚠ 注意



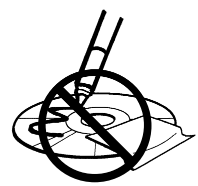
トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。



強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。



清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

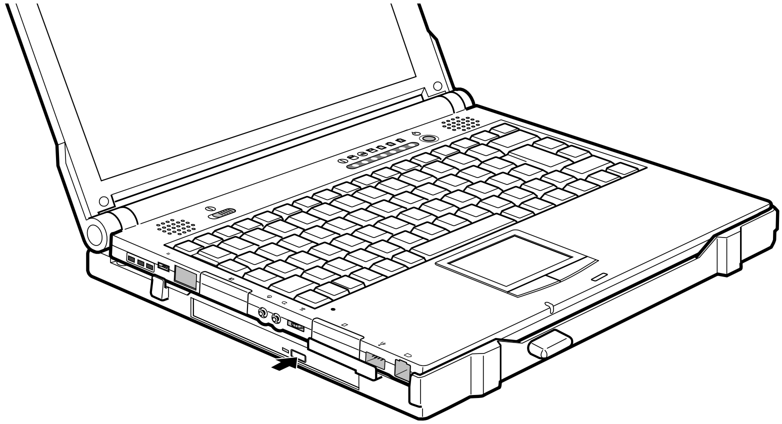


ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

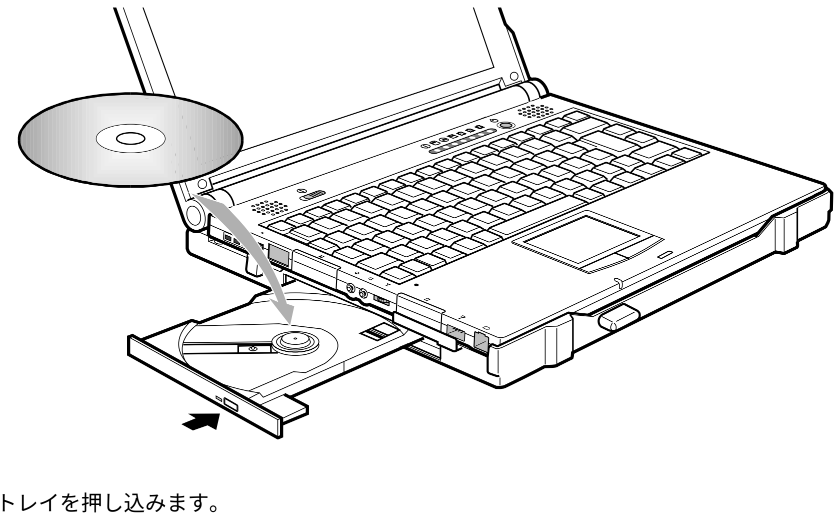
CD-ROMの出し入れ

1 コンピュータ本体の電源をONにします。

2 CD-ROMイジェクトボタンを押します。



3 CD-ROMをセットします。文字が書かれている面を上にして、トレイにCD-ROMを確実に固定してください。



4 トレイを押し込みます。

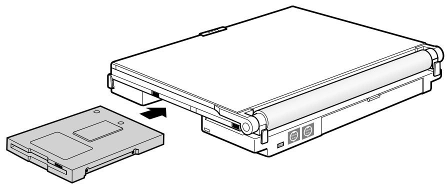
5 CD-ROMを取り出すときは、HDD LEDやFDD LEDが点灯していないことを確認してから、再度イジェクトボタンを押します。

4 フロッピーディスクドライブユニットを装着する

本体付属のフロッピーディスクドライブユニットを装着することができます。

装着するには

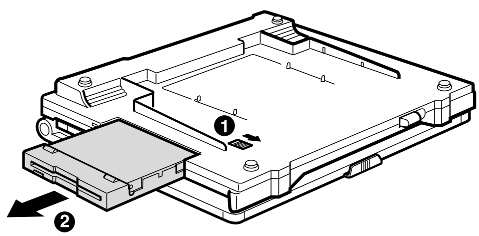
フロッピーディスクドライブユニットスロットに、フロッピーディスクドライブユニットを挿入します。



⚠注意 **接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で接続することはできません。**

取り外すには

ベースステーション底面のドライブユニットイジェクトボタンをスライドさせたまま（❶）、フロッピーディスクドライブユニットを引き出します（❷）。

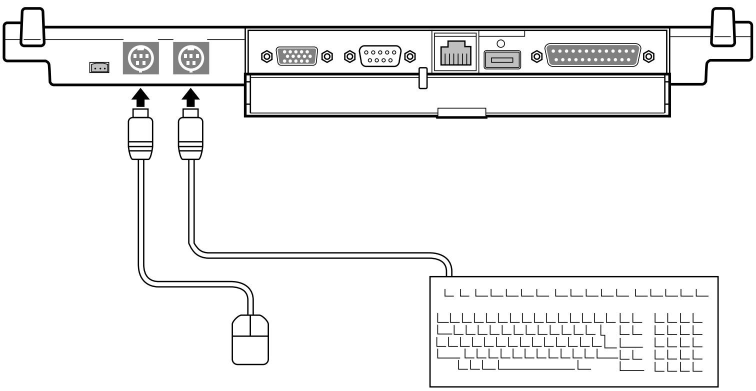


⚠注意 **フロッピーディスクドライブユニットを取り外すときは、ドライブユニットイジェクトボタンを確実にスライドさせてください。確実にスライドせずに取り外そうとすると、機器を壊す恐れがあります。**

5 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードやテンキーパッドまたはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードおよびマウスを接続することができます。

注意 **スクロール付きマウスは、Windowsを起動する前に接続してください。スクロール機能が使えなくなります。**



本体背面にある外部キーボード/マウスコネクタに、外部キーボード、テンキーパッド、マウスのケーブルを接続します。
接続されたキーボード・テンキーパッドとマウスは、自動的に認識されます。

Note **外部テンキーパッドを使う**

外部テンキーパッドは接続すると自動的に認識されます。内部キーボードで通常の入力を行いながら同時に使用する場合は、内部キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。

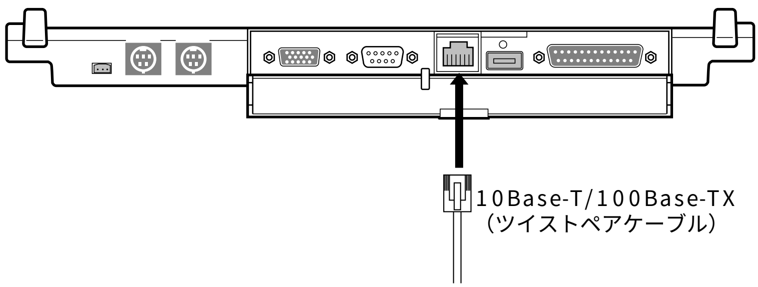
使用できる製品については弊社テクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

6 LANを使う

ベースステーションに接続することで、WinBook Bird/XをLAN環境に接続できます。LAN環境で使用する場合、本製品の省電力機能を無効にすることをおすすめします。LANの設定は次のようになっています。

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power」－「Customize Setting」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

設定が終了したら、ツイストペアケーブルをLANコネクタに接続します。



10Base-T/100Base-TX LANポートをお使いになるには

WinBook Bird/Xで、10Base-T/100Base-TX LANポートを使用するには、接続するLAN環境に合わせて設定してください。

1 WinBook Bird/Xをベースステーションに接続した状態で、Windows®98を起動します。自動的にLANコントローラが認識されます。

2 Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、メニューから[設定]-[コントロールパネル]を選択します。

3 [コントロールパネル]ウィンドウが表示されるので、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

4 接続するLAN環境に合わせて設定します。

以上で設定は終了です。

第7章

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

1 トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行ってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(➔ 14ページ)

⚠注意 **キーボード、およびマウスからの入力を一切受けつけない状態（ハングアップ状態といいます）になったときには、Ctrl+Alt+Del キーでソフトウェアリセットを行ってみてください。もし、電源を立ち上げ直しても復帰できないときは、テクニカルサポートセンタまでご連絡ください。**

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。その場合は、弊社テクニカルサポートセンタにご相談ください。
本体が故障している。	弊社テクニカルサポートセンタにご相談ください。
メモリが正しく装着されていない。	動作保証されているメモリを装着してください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRTで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	コンピュータの電源をONし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピードライブがブートデバイスに設定されていて、かつフロッピーディスクがドライブにセットされている。	フロッピーディスクを出して、キーボードのキーをどれか押してください。

●Windows®が起動しない

考えられる原因	対処方法
メモリテストが正常に行われるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。(➔84ページ)
Windows®のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、前回、Windows®が正常に終了できていません。	電源を入れた直後からずっと[F8]キーを押していると起動メニューが表示されます。ここで、「Safeモード」を選ぶと、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。また、「Step-by-step Confirmation」(各コマンドの実行を確認する)を選ぶと、起動コマンドを1つずつ確認しながら起動できます。Windows®起動時のトラブルの詳細についてはWindows®のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。弊社テクニカルサポートセンタにご相談ください。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(➔ 46ページ)
3モードドライバがインストールされていない状態で、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクがセットされている。	3モードドライバを再インストールしてください。なお、出荷時は、すでにインストールされていますので、1.2MBフォーマットでもそのまま読むことができます。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●スーパーVGA、XGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。また、サスペンドしている場合には電源スイッチを押してください。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使わないときは、システムコンフィグレーションの設定を変更してください。(➔ 78ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、"ひらがな/カタカナ"キーなどが間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 48ページ)

●音が鳴らない

考えられる原因	対処方法
Windows®のミキサーでミュートがチェックされている。	ミュートのチェックを外してください。

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 80ページ)

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
システムコンフィグレーションメニューの設定が正しくない。	システムコンフィグレーションを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 78ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 24、26ページ)

⚠注意 **ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて承っております。**

Appendix

本製品に関する補足事項、本ユーザーズガイドの索引について記載しています。必要に応じてお読みください。

1 Windows®98でのパワーマネージメント機能の使用

Windows®98では、自動的にCPUのクロックスピードをコントロールして電力を節約するAPMという機能が働いており、これにより長時間のバッテリ使用ができるようになっています。
コントロールパネルの「電源の管理」で、使用する環境にあわせて最も適切な電源管理を選択してください。
さらに、バッテリ使用時間を長くしたい場合には、「Power Savings」と「オートサスペンド」の機能を利用する必要があります（➔86ページ）。

2 赤外線通信について

WinBook Bird/Xには赤外線通信の手段として、Windows®98のケーブル接続があります。

Windows®98のケーブル接続

接続先のノートブックコンピュータをドライブとして割り当てて、任意のアプリケーションよりアクセスすることができます。この場合、通信相手のコンピュータのオペレーティングシステムは、Windows®98である必要があります。

Windows®98のケーブル接続の設定方法については、次の手順でヘルプを開いて確認してください。

Windows®98のケーブル接続の設定方法

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[ヘルプ(H)］を選びます。
2. [キーワード]タブをクリックし、「ケーブル接続」と入力して「Enter」を押します。
3. 「赤外線通信によるケーブル接続をセットアップするには」をクリックし、[表示]をクリックします。

⚠注意　コントロールパネルの中にある[赤外線モニタ]は、Windows®98のケーブル接続を使用するときには有効にしておく必要があります。

4. ［コントロールパネル］ウィンドウの[赤外線モニタ]アイコンをダブルクリックして、「赤外線モニタ」を起動します。
5. 「オプション」欄を選択し、「次のポートで赤外線通信を使用可能にする(E)」の項目のチェックマークをクリックして、使用目的に合わせて設定を変更してください。
6. ［OK］をクリックして、赤外線モニタを閉じます。

3 索　引

す

せ

そ

た

つ

て

と

な

に

は

ひ

ふ

Appendix

MEMO

テックサポートFAXシート

年　　月　　日

ご質問の製品名	
ご使用機種名	ご使用機種名は必ず明記してください。
シリアルナンバー	
お名前	
貴社名	
部署名	
電話番号	
ＦＡＸ番号	

ご使用の周辺機器
（※品名、機種名、メーカー名をお書きください）

ご質問の種類	ハードウェア　周辺機器　ソフトウェア　その他

＜質問内容＞
※ご質問の内容をなるべく詳しくお書きください。

当社製品についてご不明な点がございましたらこの用紙をコピーしてお使いください。

ＦＡＸ送信先：０４５（２２４）－１１２６

（株）ソーテック　テクニカルサポートセンタ宛

WinBook Bird/X
ユーザーズガイド

1999年10月　　第1版
株式会社ソーテック

SOTEC